

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2025年 1-2月

「神の民のための賜物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「新しい年に」

3

朝のマナ

「神の民のための賜物」

4

Gifts for God's People

力を得るための食事

「ハッシュド長いも」

66

レシピ

お話コーナー

「最初の赤ちゃん(Ⅱ)」

68

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2024年12月1日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

新しい年に

すでに新しい年が訪れを告げている。けれどもわたしたちがその訪れを喜んで迎える前に、「記録という重荷をかかえて、今永遠に過ぎ去ろうとしているその年の歴史はどうであったろうか」と問うために、わたしたちは立ち止まる。「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか自分を反省し、自分を吟味するがよい」と、使徒の訓戒がわたしたち一人一人に書き送られている。この重大な時に、わたしたちがまじめで率直な厳しい反省をする時間がないほど他の事柄に夢中になることを神は禁じておられる。さほど重要でないことは後にして、今は永遠の利益に関する事柄を前面にもってこようではないか。……

わたしたちはだれも自分自身の力でキリストのご品性を現わすことはできない。しかし、もしイエスが心に住まわれるなら、このお方のうちに宿っている精神がわたしたちのうちに現わされ、わたしたちに不足しているものはみな補われる。だれが新しい年の初めに神の事柄における新しい本物の経験を得ようと探し求めるのであろうか。あなたの悪をできるかぎり正しなさい。互いに自分の過ちや罪を告白しあいなさい。すべての敵意や怒り、悪意を捨てさり、忍耐、寛容、親切、愛があなたの存在そのものの一部となるようにしなさい。そうすればすべて純真なこと、愛すべきこと、ほまれあることがあなたの経験において、成熟するようになる。……

過ぎ去った一年をとおしてわたしたちはどのような実を結んだのであろうか。他の人々へのわたしたちの感化はどのようであったらうか。キリストの羊の群れを集めたのであろうか。世間の目がわたしたちに注がれている。わたしたちはキリストの生きた手紙、すべての人に知られ、読まれている手紙であらうか。克己、柔和、謙遜、寛容、十字架を負うこと、献身においてイエスの模範に従っているであらうか。世はわたしたちがキリストの僕であると認めざるを得ないであらうか。……

この新しい年にわたしたちは過去の過ちを正そうと努力しないのであろうか。キリストの恵みを培い、心を柔和にまたへりくだらせ、真理に堅くしっかりと立つことは個人的にわたしたちの義務である。このようにすることによってのみわたしたちは聖潔のうちに前進し、光のうちにいる聖徒の嗣業にふさわしい者となるからである。完全に自己を放棄してこの一年を始めよう。救い主のわたしたちへのご要求を理解することができ、いつでも、どこでもキリストの証人となることができるために、はっきりとした識別力を求めて祈ろうではないか。

イエスを掲げなさい。このお方を説教、勧告、賛美、祈りの中で掲げなさい。混乱し、途方にくれている失われた魂に「世の罪を取り除く神の小羊」を指し示すために、あなたの努力をすべて傾けなさい。その人々に見て生きよと命じなさい。(彼を掲げよ 15)

神の民のための賜物

Gifts for God's People



1-2月

1月 すべての人の手に届く賜物

2月 聖霊は快く従う者を助ける

源へ行こうではないか!

「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。」(ヤコブ 1:17)

神は愛である。太陽の光のように、愛と光と喜びは、神からすべての被造物に流れ出る。与えることが神のご性格である。神の生命そのものが無私の愛のほとばしりである。」(祝福の山 95)

自分本位の隣人は、休息が妨げられないために、切なる願いを聞き入れる。しかし、神は与えることを喜ばれる。神はあわれみに満ちたお方で、信じて神に来るものの願いを聞こうと切望しておられる。神がわたしたちにお与えになるのは、わたしたちが他に奉仕するためである。そして、その奉仕によって神のようになるためである。(キリストの実物教訓 117)

神はご自分の恵みを世に表そうと望んでおられる。そして、ご自分の子らが、自分たちを通してそれができるように求めることをお望みになる。彼らのご自分の勧告を求め、ご自分の力を認めるようにと望まれる。キリストはご自身の命を与えたすべての者にむかって、愛に満ちた要求をなさる。キリストが、この地上でご自分の品性を反映するすべての者のために用意しておられる喜びにあずかりたいのであれば、このお方のみ旨に従わなければならない。自分の弱さを感じることはわたしたちにとってよいことである。そのときわたしたちは悪の力に対して日ごとに戦うために、御父が喜んでご自分の子らに与えようとしておられる力と知恵を求めるからである。

教育、訓練、経験ある人々の勧告はみな欠くことはできないが、働き人はいかなる人の判断にも完全に頼りきってしまうべきではないことを、学ばなければならない。神の自由な代理者として、すべての人は神から知恵を求めるべきである。(教会への証 9 巻 284)

主はわたしたちにご自分の恩恵を与える義務があるわけではない。けれども、もしわたしたちが聖書の中に記されている条件に従うなら、契約におけるご自分の分を果たすと誓っておられる。人は度々約束をするが、それを実行しない。わたしたちはしばしば、人を信頼するのは折れた葦に寄りかかるようなものであることを経験する。しかし主はご自分を信じる魂を決して失望させたりはなさらない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889 年 12 月 16 日)

1月2日

目的をもって与えられた命

「主なる神は土のちりて人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。」(創世記 2:7)

命という神の無償の賜物を持つ者として、わたしたちは有用さの最高にまで達するために全力を尽くさなければならない。健全な体によく調和の取れた思いを持たない人々は、自分たちの生涯の働きを果たせない。(原稿 10 巻 56)

命はわたしたちが所有しているタラントを賢く発達させるために与えられている。わたしたちの機会が大きければ大きいほど、すべての良い賜物の与え主への責任も大きくなる。わたしたちは神の所有であるから、自分の行動すべてについてこのお方に申し開きをしなければならない。もしわたしたちの生涯に気高く無私の行動がないとすれば、それらはこのお方の目にどれほど哀れなものに映ることであろうか。もし怠惰のうちに、快楽を求め、不真面目に過ごしてきたとしたら、どうであろうか。

アダムは全地の王として、栄光に満ちたエデンに置かれた。しかしなお、彼にはなすべき仕事を与えられた。創造主は園を手入れし整えるようにと彼にお命じになった。このように神の知恵は、罪のない人にとって仕事をするのが最善であるのをご覧になった。そうであれば墮落した人類にとって有益な労働に自分の時間を用いて、多くの誘惑への戸を閉じて悪の侵入を防ぐことはどれほどもっと必要であろうか。

することが何もない人々は、もっとも惨めな人間である。傾向と快楽への愛着によってのみ導かれる人生は、満足感を与えないものであり、その中に世を祝福するような物惜しみをしない行為や熱心で活動的な働きを探そうとしても無駄である。一日一日の記録を点検するとき、わたしたちは自分たちの口座に、利己的満足を超越した残高を見出せるようにすべきである。すなわち、自分自身を向上させ、同胞の益となり、神に受け入れられることを何かなしとげたことを確認すべきである。(健康改革者 1877 年 12 月 1 日)

受ける者はだれでも神に申し開きをし、自分のタラントを神の栄光のために用いなければならない。(ビュー・アンド・ハールド 1912 年 4 月 4 日)

1月3日

完全な教訓

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。」(詩篇 19:7)

最終決算の日にキリストは、ご自分が人間の贖いのためにご自身の命を与えることで果たされた大いなる働きを、彼らの前にお示しにはならない。彼らをご自分のためになした忠実な働きを彼らの前にお示しになる。これは何という人知を超えた愛であろうか。このお方は、主の律法についての知的な知識がなくても、自然の事物の中で自分に話しかけている声に聞き従ったがゆえに、まさしく律法が要求していることをなしてきた異邦人の働きにさえ言及される。聖霊が未開人の心の中にキリストの御霊を植えつけ、彼が神の僕の友となるとき、心の中に呼びさまされた同情は、彼の性質とは相反するものであり、また彼の教育に相反するものである。暗くなっている思いに働きかけている神の恵みは、人間の知恵によって教えを受けていない未開人の性質を和らげた。そしてこれらの教育を受けていない異教徒は、その残酷さのうちにあっても、大いなる光と証拠を持っているながら、神のあわれみと譴責を拒んでいる人々より望ましいとみなされるのである。

キリストは未開人の心にご自分の恵みを植えつけられるので、彼は真理と命のみ言葉を聞いて十分理解する前ですら、その伝道者の必要に奉仕する。神の僕に害を加えようと彼の周りに集まった群衆を見よ!しかし主はご自分の僕のために嘆願するようにと、一人かもしれないが、ある人の心と思いに働きかけておられる。そして軍事会議がそのクリスチャンの命を取ることを決定するとき、その未開人のとりなしは決定を覆し、彼の命は助かる。ああ、このひとつの行為のために未開人へと出て行く愛よ!審判でキリストはそのような者に仰せになる。「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」(マタイ 25:35、36、34)。(レビュー・アンド・ヘルド 1898年9月20日)

1月4日

祝福である神の正義

「神よ、あなたの御座は、世々限りなく続き、あなたの支配のつえは、公平のつえである。」(ヘブル 1:8)

〔神〕は、宇宙の全住民が、最終的な反逆の打倒と罪の根絶において、神の正義を確信することを望んでおられる。このお方は、罪の真の性質と恐ろしい影響とがはっきりと表され、それによってすべての者が神聖な統治の知恵と正義に間違いがないことを確信するよう意図しておられる。(聖書訓練学校 1908 年 12 月 1 日)

キリストの王国に関しては、良心の強制や無理強いは許されていない。血が流されたり、武力が用いられたり、神の国と神の義とを選ばない人を投獄するために牢獄が開かれたりしてはならない。キリストは真理を通して聖化された心の自発的な奉仕のみをお受け入れになる。(ビュー・アソッド・ハルト 1895 年 3 月 26 日)

さばきの場面は全諸世界の面前で起こる。なぜなら、このさばきにおいて、神の統治の正当性が実証され、神の律法が「聖であって、正しく、かつ善なるもの」としてあらわされるからである(ローマ 7:12)。そのとき、一つ一つの判決が下され、すべての人にそれが宣告される。罪はその時には魅力的には見えず、はなはだしく忌まわしいものであることがありのまま見られるようになる。……

すべての行為は、小さくても大きくても、評価されることになる。ここでは、些細なことだと思われたことも、そのときにはありのまま見られるようになる。やもめのレプタ二枚が認められる。差し出された冷たい水一杯、訪問した牢獄、空腹なものに食べ物を与えられたこと、こうした一つ一つのことがその報いをもたらす。そして、果たされなかった義務、利己的な行為が忘れられることはない。神のみ座の周りの公開された法廷で、それを行った時とはずいぶん異なる様相で現れるようになる。……

わたしたちが今表している品性が、わたしたちの将来の運命を決定している。天の幸福は、神のみ旨に一致することによって見出される。……神はだれが地上のご自分の王国の忠実で誠実な臣民であるかをご存知である。そして、天でなるごとく、地上でご自分のみ旨を行う者が、天上の王家の一員とされるのである。(神のむすこ娘たち 361)

あわれみ

「主はあわれみに富み、めぐみふかく、怒ること遅く、いつくしみ豊かでいらせられる。」(詩篇 103:8)

神が人の子らの強情をこれほど長く忍び、人の子らの不従順を忍びつつ、彼らのご自分のあわれみにつけこんで、最も悪意のある供述でご自分に対して偽りの証をしつつ生きるのを許されるとは、わたしにとって驚くべきことである。しかし神の方法はわたしたちの方法とは違うので、わたしたちはこのお方の愛にあふれる寛容、優しいあわれみ、無限の同情に驚きはしない。なぜならこれがまさにこのお方の品性—怒ることおそく、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろうという間違えようのない証拠を与えておられるからである。(この日を神と共に 187)

神はあわれみ深い。このお方の要求は道理にかなっており、そのご品性の優しさと慈悲心に調和している。(教会への証 2 巻 582)

もし、わたしたちが当然受けるような取り扱いを、主がわたしたちになさるなら、わたしたちは頑固で感謝を表さない子供のように多くの方法で罰せられないであろうか。しかしこのお方は辛抱強く、わたしたちの強情に見合った取り扱いをなさらない。その代わりにわたしたちをご自身ならびに御子と協力するようにと申し出られる。その申し出を受け入れるすべての者は命を持つことができ、世界は福音の祝宴に招待される。(ビュー・アノド・ハルド 1895 年 9 月 24 日)

主はあわれみ深い。このお方はご自分の民を憎むからではなく、彼らが犯している罪を憎むので懲らしめられるのである。彼らが忠実へと帰ることができるために、主は彼らを懲らしめなければならないのである。このお方は彼らを罰することが彼らとそのほかの者への警告となるよう計画しておられる。だれも闇のうちを歩く必要はない。だれも「わたしのどこに罪があるか悪いところを正確に言ってみなさい」という必要はない。こう言う人々にわたしは「祈りつつ探りなさい、そうすればわかるであろう」との主の言葉を伝える。

神の御言とその御霊の証のなかに与えられている警告と責責が十分にはつきりとししないのなら、どのようなみ言葉が回復と改革を引き起こすのに十分はつきりするのだろうか。(上を仰いで 240)

〔主〕は罪を犯しているご自分の民が悔い改めるのを長く待っておられるが、それは彼らから鞭を取り除き、ご自身の平安と喜びで彼らの心を満たしつつ彼らに許しと愛を与えることができるためである。(パシフィック・エノン・レーダ-1902 年 8 月 14 日)

1月6日

保たれる

「あなたは、ただあなたのみ、主でいらせられます。あなたは天と諸天の天と、その万象、地とその上のすべてのもの、海とその中のすべてのものを造り、これをことごとく保たれます。」(ネヘミヤ 9:6)

この世界に関して言えば、神の創造の働きは完成している。なぜなら「みわざは世の初めに、でき上がっていた」からである(ヘブル 4:3)。しかし神のエネルギーはまだご自身が創造されたものをささえることに発揮されている。脈が打ち、呼吸が続くのは、一度動くように設定された仕組みがそれ自身に備わっているエネルギーによって活動を続けるからではない。一つ一つの呼吸、一つ一つの心臓の脈拍は「われわれは……うちに生き、動き、存在している」お方のすべてにゆきわたる気配りの証拠である(使徒行伝 17:28)。地が年毎に収穫を産み出し、地球が太陽の周りを回り続けるのは備わっている力によるのではない。神のみ手が惑星を導き、天をめぐる秩序正しい運行のなかでそれらを正しい位置に保っておられるからである。このお方は「数をしらべて万軍をひきだし、おのおのをその名で呼ばれる。その勢いの大いなるにより、またその力の強きがゆえに、一つも欠けることはない」(イザヤ 40:26)。植物が生育し、葉が現れ、花が咲くのはこのお方の力による。このお方は「もろもろの山に草をはえさせ」、このお方によって谷は豊作となる。「林の獣は皆……神に食物を求める」、そして生きているあらゆる被造物は最も小さな昆虫から人間に至るまで、日々このお方のみ摂理の心配りに依存している。詩篇記者の美しい言葉の中で「彼らは皆あなた……を期待している。あなたがお与えになると、彼らはそれを集める。あなたが手を開かれると、彼らは良い物で満たされる」と述べている(詩篇 147:8、104:20、21、27、28)。神のみ言葉は自然の力を支配し、天を雲で覆い、地のために雨をお供えになる。……「彼が声を出されると、天に多くの水のざわめきがあり、また地の果から霧を立ちあがらせられる。彼は雨のために、いなびかりをおこし、その倉から風を取り出される」(エレミヤ 10:13)。(クリスチャン教育 195、196)

健康の度合い

「わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。」(詩篇 42:11)

健康は祝福であるが、その価値を認めるものは少ない。しかし、知的、体的能力が力を発揮するには、体が健康でなければならない。わたしたちの感情は、身体の中に座を占めているから、身体も精神も最上の状態に保つようにして、わたしたちの才能を最高に活用しなければならない。

体力を減退させるものは、なんであっても、精神を弱め、善悪の識別力を弱める。だんだん善を選ぶ力がなくなり、正しいと知りつつ、それを行なう意志の力がなくなる。

身体の諸機能を誤用するならば、神の栄光のために用いることができるはずの寿命をちぢめ、神からゆだねられた仕事を果たすことができなくなる。悪い習慣をつづけたり、夜ふかしをしたり、健康を犠牲にしてまで食欲を満足させたりすることは、体を虚弱にする原因である。運動を怠ったり、心身を過度に疲れさせたりすると、神経系統の平衡が失われる。このようにして、自然の法則を無視したために寿命をちぢめ、奉仕ができなくなった人びとは、神に対して盗みの罪を犯している。彼らは、また、同胞からも盗んでいることになる。他を祝福する機会、すなわち神がこの世界に彼らをお送りになったたいせつな仕事を、自分自身で短縮してしまった。そればかりではなくて、その短い期間に果たし得たはずのことさえできなくなってしまった。こうして、わたしたちが有害な習慣のために、世界から善を奪うときに、神はわたしたちに有罪の宣告を下されるのである。

肉体の法則に反することは道徳律に反することである。神は、道徳律の創設者であると同時に、肉体の法則の創設者でもある。神は、人間にお任せになったすべての神経とすべての筋肉とすべての機能の上に、神の律法をご自分の手でお書きになった。であるから、わたしたちの体の組織のどの部分の悪用であっても、それは、その律法の違反になるのである。(判抄の実物教訓 322、323)

1月8日

自然の美

「主よ、あなたのみわざはいかに多いことであろう。あなたはこれらをみな知恵をもって造られた。地はあなたの造られたもので満ちている。」(詩篇 104:24)

無限の力を持ち、大いなる恵みとあわれみと愛に富まれる神がこの地を創造し、生命と喜びで地上を満たされたことを自然が証明している。こうした、むしばまれた状態においてなお、万物は「大芸術家」の手のわざを表わしていて、どちらを向いても、わたしたちは神の声を聞き、神の恵みの証拠を見ることができる。

低くなりどろく雷の荘厳な響きや、絶え間ない海の波の音をはじめとし、森の中にメロディーをひびかせる小鳥の楽しい歌声にいたるまで、自然のあらゆる声が神を賛美している。また地も海も空もすばらしい色彩をこらし、目のさめるような配合や、美しく調和した混合色のうちに神の栄光をながめるのである。いつも変らない丘は神の力を語り、緑の旗を太陽になびかせている木々や優美な花も、創造主の力を示している。褐色の地上を敷きつめている新鮮な緑は被造物の中で最も低いものに対する神の保護を物語っている。海の洞窟や地中の深い所に神の宝がある。海中に真珠をちりばめ、岩の間に紫水晶や緑玉を飾られた神は、美を愛されるおかたである。空にのぼる太陽はすべての被造物の生命であり、光である神を代表するものであり、地を飾り、天を照す、あらゆる輝きと美が神を物語っている。(ミストリー・オブ・ヒーリング 383、384)

すべての被造物は、神の完全さについて栄光を告げている。人間の利己心よりほかには、自分だけのために生きているものは何もない。空中を飛ぶ鳥も、地上を動きまわる動物も、すべて何かほかの生命のために奉仕している。どんな森の木も葉もどんな小さな草の葉も、それぞれ奉仕している。……花はかおりを放ち、その美しさをあらわして世の人々の祝福となる。太陽は光を放つてもろもろの世界をよろこばせる。海はすべての泉のみなもとであるとともにまたすべての土地の水の流れを受け入れるが、それは与えるために受けるのである。海面から立ちのぼる霧は、地から芽が出るように、土地をうるおすために雨となってくる。(各時代の希望上巻 2、3)

記された神のみ言葉

「主のことは清き言葉である。地に設けた炉で練り、七たびぎよめた銀のようである。」(詩篇 12:6)

わたしたちは不確かなことに信頼する必要はない。わたしたちは父祖たちからよりはむしろ、神の御言からこのお方のことを学ぶ。神を知ること、これは永遠の命である。ああ、聖書が神の靈感を受けた言葉であることはなんと感謝なことであろうか。昔の聖なる人々は御霊に動かされて、このみ言葉を書いた。神はご自分のみ言葉を人間の記憶の中に保存し、口述の伝達や言い伝えによる公表で、各世代に伝えようとはなさらなかった。もし神がこうなされたなら、み言葉は徐々に人間によって付け加えられていたであろう。わたしたちは靈感によらないものを受け入れるようにと要求されたことであろう。記された神のみ言葉のゆえにこのお方に感謝しよう。

み言葉について書かれた注解書はすべてが一致しているわけではない。それらはしばしばお互いに対立する。神はわたしたちがそれらに導かれるようにとは仰せにならない。わたしたちが扱わなければならないのは神のみ言葉である。すべての者はこのみ言葉を自分自身で探ることができる。そしてこの尊い書の教えが不変のものであることを知ることができる。人間の意見はそれぞれ異なるが、聖書は常に同じことを言う。神のみ言葉は永遠から永遠に至る。

聖書は牧師や教育のある人々のためにだけ与えられたのではない。すべての男女も子供も、自分自身で聖書を読まなければならない。あなたのために聖書を読むのを牧師に頼ってはならない。聖書はあなたのための神のみ言葉である。貧しい者は金持ちと同じだけ聖書を必要としており、教育のない者は教育のあるものと同じだけそれを必要としている。そしてキリストはこのみ言葉を非常に分かりやすくしておられるので、だれもつまづく必要はない。身分が低くあばら家に住む者も、世がかつて知った最も賢明な教師によって与えられた御言を読み、理解しよう。諸王の中にも、統治者の中にも、政治家の中にも、世で最高の教育を受けた人々の中にも、このお方より偉大な者はなかった。

探るとは失われている何かを勤勉に探すことを意味する。隠れた宝を自分で探さない。この働きを牧師に任せてはならない。あなたは神の御言に無知である余裕はない。(上を仰いで 52)

1月10日

時

「神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。」(伝道の書 3:11)

時はあらゆる人間に責任をもたらす。そして青年は、神が彼らに行うようにと与えておられる働きを成就することに思いと身体能力を用いるべきである。彼らは主人であるお方の奉仕で善を行うことに毎時間を用いるようにと要求されている。過ぎ行く一日一日はわたしたちの魂が愛するお方にお会いするその時へとわたしたちを近づけている。この現在のかなたに永遠の未来がある。今はちょうどテストと試練のときである。今は恵みの種まきと実りの収穫のときである。時は非常に尊い。一日一日、一週一週、一月一月は、一年を構成しており、その日々が過ぎると、未来の生涯への準備に一日、一週間、一ヶ月が減っていつている。しかし幾千もの人々が、尊い時間をあたかも価値のないものであるかのように不注意に、うかうかと無関心に、責任を担う必要も感じず、ぐずぐずと過ごしている。この娯楽や、この小旅行で、時が過ぎていくと彼らは言う。しかし、人生とは、そういうものではない。時は神に申し開きをしなければならないタラントである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1899年1月10日)

キリストは「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」と命令しておられる。幾千の人が日々、飢饉、流血、火災、疫病のために滅んでいつている今日、同胞を愛する者は、その益となるように心がけ何一つ、むだにしたり、不必要に使用したりしないのが当然である。

むだに時間を使うことも、むだに考えることも不正である。また自分の利益のためにだけ時を費やすことは、その時間をすべて失うことになる。一刻一刻を尊び、これを正しく用いるならば、自分にとっても、社会にとっても、なさねばならないことにすべて時間があるはずである。金銭を費やすとき、あるいは時間、体力、機会を使用する場合、すべてクリスチャンは神に指導を仰がなければならない。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願いを求めるがよい」(ヤコブ 1:5)。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 185)

機会

「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」(コリント第二 6:2)

延ばさないように気をつけなさい。罪を捨てることを延ばし、イエスによって心をきよめていただくことを遅らせてはならない。この点で幾千という人が誤り、永久に滅びてしまった。わたしは今にも人生の短いことや、はかないことを述べようとは思わないが、ここに人の気づかない恐ろしい危険がある。それは、神のみたまのささやきに従うことを延ばし罪の生活をつづけていくという恐ろしい危険である。これは実に恐ろしいことである。たとえどんなに小さくても、罪にふけることは、永遠に失われる危険をおかしているのである。わたしたちが打ち勝たないものは、わたしたちを打ち破り、ついにはわたしたちを滅びにいたらせるのである。(キリストへの道 38)

わたしたちが将来におけるもっと大きな働きを成し遂げる希望をもって、善をなす現在の機会にぐずぐずするのは神に喜ばれない。一人びとりが自分の関心を念頭に置き、自分の判断にまったく信頼するのでもなく、み摂理の導きに従わなければならない。ある者は神が成功させるおつもりであるところに失敗を見る性質があり、神と天使が神の真理に栄光を与える準備ができているのを、他の者がもっとはっきりとした視力で、見ることができるそのところに、巨人と城壁に囲まれた町々しか見ることができない。(教会への証 5 巻 392)

あなたが病気であろうと健康であろうと、裕福であろうと貧しかろうと、神の栄光にだけ目を留めて生きようと決心し、喜びに満ちた心で、神の開かれているみ摂理に従うことを学ぶとき、貴方はどれほどの勝利を得ることであろうか。(同上 4 巻 221)

わたしたちは個人個人思いと身体の生来備わった力を最高に用いないのであろうか。あらゆる能力を訓練によって強め、委ねられたあらゆるタラントを注意深く大事にしないのだろうか。また若者、経験のない者、年老いた者、経験のある者がわたしたちとの交わりによって益を受けるそのような方法で生きようとするのだろうか。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 23 日)

神に奉仕するために生じるあらゆる機会を活用しなければならない。わたしたちの賜物は用いることによって増し加わる。(原稿 17 巻 203)

1月12日

ある程度の物質的な財産

「イエスは彼〔その金持ちの青年〕に目をとめ、いつくしんで言われた、『あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい。すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。』」（マルコ 10:21、22）

〔その金持ちの青年〕にとって富は、名誉であり、力であった。だから彼の財産が莫大であったがゆえに、それを捨てるというのはほとんど不可能であるように思えた。

世を愛していたこの人は、天国を望んでいた。しかし、彼は自分の財産を持ち続けることを望み、金と力を愛するがゆえに永遠の命を放棄した。ああ、なんと悲惨な交換であろうか。しかしながら神の戒めをすべて守っていると公言する多くの者が同じことをしている。

金銭に執着する人にとって、ここに富の危険がある。富が増すにつれ、その人にとって気前よくふるまうことが難しくなる。自分の富を減らすことは自分の命を減らすことのように思えるのである。だから彼は地上の財産を持ち続け、それを増やすために、不死という報酬の魅力に背を向ける。彼が戒めを守っていたなら、彼の世的な財産はそれほど多くはなかったはずであった。自分自身のためにはかりごとをなし、骨折っているあいだ、彼はどのようにして心をつくし、思いをつくし、力をつくして神を愛し、自分を愛するように隣人を愛することができるであろうか。貧しい者の欠乏が生じたときに、彼がその必要にに応じていたなら、もっと幸福であり、天に宝をはるかに多く蓄え、地上の宝に愛情を注ぐことがはるかに少なかったことであろう。

キリストはわたしたち一人ひとりに財産および感化力というタラントを委ねておられるので、ご自分の僕と清算をするために来られるとき、すべての者は自分に委ねられたタラントの用途について最も厳密な報告をするようにと命じられる。兄弟姉妹方、あなたはどのようにその調査に耐えるのであろうか。あなたは主人であるお方の前に元金と利子を置き、自分がこのお方の奉仕に忠実で辛抱強いだけでなく思慮深い働き人であることを示しつつ、このお方のタラントを倍してお返しする用意ができていのであろうか。（レビュー・アソッド・ヘラッド 1885年6月23日）

健全な思いという賜物

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と憤みとの霊なのである。」(テモテ第二 1:7)

人は華々しい知性を持ち、天賦の才能の豊かな者になることができる。しかしこれらはすべて神、彼の造り主から与えられたものである。神は理性という賜物を取り去ることができ、人は一瞬に野の獣の段階にまで落ちたネブカデネザルと同じになる。(セクテッド・メッセージ 1巻 298)

愛するヘンリーへ。わたしは恵まれていない子供、すなわち思慮のない子供のすることを目にするたびに心に痛みを覚えてきた。彼の肌はきれいで、目鼻立ちは整っているが、彼には知性がない。愛するヘンリー、わたしの愛する息子たちが知性において祝福されていることを、わたしはどれほど主に感謝していることか!わたしのヘンリー、たとえ家一杯の金貨があっても、わたしはあなたがあの哀れな少年のようであって欲しくはない。あなたは主が申し分のない健康と理性をもってあなたを祝福してくださっていることに、どれほど感謝をしなければならないことか。

もしあなたが高潔で雄々しい進路を取ってさえいるなら、それだけでわたしたちはうれしく思う。わたしたちの愛する子供たちは、わたしたちにとって尊い宝石である。わたしたちはあなたが生まれるとすぐあなたを神にお捧げした。あなたの気質が和らげられるようにとあなたのごく小さいときからあなたのために熱心に祈った。愛するヘンリー、あなたがわたしたちのうちの中で意識がなかったとき、わたしたちは泣いた。あなたに正しい霊を入れてくださるようにと、主ご自身の囲いに導いてくださるようにと、わたしたちは嘆願した。そして今わたしたちの最も大きな懸念はあなたのことである。わたしたちはあなたを愛しており、あなたが救われるようにと願っている。あなたの品行が義務という意識で支配された正しいものであるように、また強いられてではなく、そうしたいから正しいことを行なう、あなた自身の決心、原則をあなたが持つようにと願っている。なぜなら正しいことを行なうには苦痛も自責の念も良心の咎めもなく、正しいことを行なっているという喜びを与える意識があるからである。

愛するヘンリー、あなた自身の過ちに気付きなさい。……これが正しいことか、悪に導いているのではないか、不忠実に導いているのではないか、欺き、あるいは偽りに導いているのではないか、自分はこれをした後で以前と同じように幸せに感じるだろうかと自分自身に問いなさい。(青年への訴え p50、51)

1月14日

理性の力

「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ 1:18)

神が地上に造られたすべての被造物のうちで人だけが反抗的である。けれども人は聖なる律法の要求を理解する理解力を所有しており、違反することへの罪悪感を覚える良心があり、服従の平安と喜びを感じる良心もある。神は人を従うか従わないか道徳的自由存在者に造られた。永遠の命という報いすなわち永遠の重い栄光は神のみ旨を行う人々に約束されている。その一方でこのお方の律法に公然と反対するすべての者には、差し迫った神の怒りが及ぶ。

神は人に与えておられる知性を彼らが用いることを期待しておられる。ご自分のために彼らがあらゆる理性の力を用いるようにと期待しておられる。良心は、指定された最高の地位につくべきである。(ビュー・アンド・ハルド 1900年11月6日)

神の統治は、サタンがあらわそうとするような盲目的な服従、道理の合わない支配ではない。それは知性のある者、良心のある者への訴えである。「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう」は、創造主から造られた者への招待である(イザヤ 1:18)。神は被造物の意志を強制なさることはない。このお方は喜んで理性的に捧げない尊敬をお受けになることはできない。単なる強制された服従は思いや品性の真の発達をすべて妨げ、人を単なる機械的に行動する者とする。そのようなことは創造主のご目的ではない。ご自分の創造の力における最高傑作である人間が、最高度にまで発達を遂げることをこのお方は望んでおられる。ご自分の恵みによってわたしたちにもたらそうとする祝福の最高点をわたしたちのまえに置かれる。このお方はご自分にわたしたち自身を捧げるようにとお勧めになるが、それはわたしたちの内にご自分の意志を働かすことができるためである。罪のぎずなから放たれて、神の子としての栄えある自由を味わうか否かは、わたしたちの選択いかんにかかっている。(キリストへの道 54、55)

救い主の賜物

「彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」(マタイ 1:21)

わたしたちもニコデモのように、自分の生活は正しくて道徳的にもまちがっていないとうぬぼれ、ふつうの罪人のように、神の前にへりくだる必要がないと考えているかも知れないが、ひとたびキリストの光が心の中にさしこむとき、自分たちがどんなに汚れているかがわかるのである。またなにをするにも自分の利益ばかり考え、神に逆らい、日常のあらゆる行動が汚れていたことを悟るのである。そしてわたしたちの義は汚れた衣のようであって、キリストの血のみが罪の汚れより清め、かれのみ姿にかたどって、わたしたちの心を新たにすることを知るのである。(キリストへの道 32)

人の心から悪の支配力を断ち切ることができるのはただひとつの力だけであり、それはイエス・キリストの内にある神の力である。十字架に掛かれたお方の血を通してのみ罪からの清めがある。このお方の恵みだけがわたしたちの墮落した傾向に、抵抗し、打ち勝つことができるようにする。(教会への証 8 巻 291)

心の貧しさを深く感じ、自分のうちに何もよいものがないと感じるすべての者は、イエスを見上げることによって義と力を見出すことができる。……わたしたちは神の愛を受けるにふさわしくない。しかしわたしたちの保証人であるキリストはそれにふさわしく、また彼に来るすべての者を豊かに救うことがおできになるのである。あなたの過去の経験がどうあろうと、また、現在の状況はどんなに落胆させるものであっても、弱く、力なく、気落ちしたままでイエスに来るならば、わたしたちのあわれみ深い救い主は、遠くからあなたを迎え、その愛のみ腕をあなたにのばし、その義の衣をあなたに着せられる。イエスはご自身の品性の白い衣をわたしたちに着せて、父なる神に紹介される。イエスは父のみまえでわたしたちのために嘆願される。そしてわたしはすでに罪人の代わりになりました、このわがままな子をごらんにならないで、わたしを見てくださいといわれる。もしサタンがわたしたちの罪を責め、わたしたちを彼の餌食であると主張して、大声で訴えても、キリストの血はより大きな力をもって嘆願するのである。(祝福の山 10、11)

1月16日

許し

「主よ、あなたがもし、もろもろの不義に目をとめられるならば、主よ、だれが立つことができますでしょうか。しかしあなたには、ゆるしがあるので、人に恐れかしまれるでしょう。」(詩篇 130:3、4)

今日肉体の病気で苦しんでいる人で、ちょうどあの中風の人のように、「あなたの罪はゆるされた」とのみ言葉を切望している者が幾千人もいる。罪の重荷は、不安と満たされない欲望を伴って、病気の根底となっている。そういう人々は心をいやしてくださる方のところにこなければ助けは得られない。キリストのみが与えてくださることのできる平安は、精神に活力を回復し、からだに健康を与えるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 52)

動機は不純で心は不潔で、自分の生活は全く利己心と罪ばかりであることを知り、なんとかしてゆるされ、きよめられて、自由になりたいと望むのである。神と調和し神に似るにはいったい何をすればよいのだろうか。

あなたに必要なものは平和である。つまり天のゆるしと平和と愛を心にいただくことである。それは金で買うことも知識で達することも、また知恵で手に入れることもできない。自分の力では絶対に手に入れることは望めないのである。けれども神は、これを「金を出さずに、ただで……買い求」(イザヤ書 55:1) むべき賜物としてお与えになったのであるから、ただ手をのぼしてそれをつかみさえすれば自分のものとなるのである。主は、「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ」(イザヤ書 1:18)。「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」(エゼキエル書 36:26)と仰せになる。

あなたは自分の罪を告白して、心よりこれを捨て去り、神に自らをささげようと決心した。であるから今、神のもとに行き罪を洗い去って新しい心を与えてくださるようお願いなさい。そして、神が約束なさったのであるから、そうしてくださると信じなさい。これはイエスのご在世の時にお教えになった教訓であって、神がわたしたちに約束なさった賜物は受けるのだと信じるときに、わたしたちのものとなるのである。(キリストへの道 62、63)

清め

「ヒソプをもって、わたしを清めてください、わたしは清くなるでしょう。わたしを洗ってください、わたしは雪よりも白くなるでしょう。」(詩篇 51:7)

わたしたちは罪人である。過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも自分自身をきよくすることもできない。しかし神は、こうしたことをすべてキリストを通してしてくださいと約束なさった。あなたはまずそのみ約束を信じ、罪を告白し、自らを神にささげ、神に仕えようと決心しなければならない。これを実行しさえすれば必ず神はそのみ約束を果してくださいるのである。神のみ約束を疑わず、ゆるされ、きよめられたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださるのである。中風の病人がいやされたことを信じたとき、キリストが歩く力をお与えになったと同じようにあなたはいやされるのである。信ずるごとくなるのである。

いやされたと感じるまで待つてはならない。そして「信じます。いやされています。わたしがそう感じるからではなく、神がこれを約束されたからです」と言おう。

イエスは「なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」(マルコ 11:24)と仰せになったが、このみ約束には条件が一つある。それは神のみ旨に従って祈るということである。けれども、わたしたちの罪をきよめ、神の子らとしてきよい生活を送らせようとなさるのは神のみこころである。であるから、これらの祝福を願い求め、それを受けたと信じて神に感謝してもよいのである。イエスのもとにきてきよめられ、恥ずるところなくおきての前に立つことができるのはわたしたちの特権である。聖書に「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない……これは……肉によらず霊によって歩く」(ローマ 8:1、4)とある。

であるから、わたしたちは自分のものではなく、価をもって買われたものである。「あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」(ペテロ第一 1:18、19)とある。神を信ずるこの簡単な行為によって、聖霊はわたしたちの心に新しいいのちをお与えになる。わたしたちは神の家族の子供として生れたのである。であるから、神はみ子を愛したもうと同様にわたしたちを愛してくださいるのである。(キリストへの道 65～67)

1月18日

告白の祝福

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、彼は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」(ヨハネ第一 1:9 英語訳)

自分の罪を認めて神の前にへりくだらない者は、神に受け入れられる最初の条件さえ果していないわけである。わたしたちが過去の罪のゆるしを味わっていない、ただ一つの理由は、心を卑くして真理のみ言葉の条件に従っていないからで、この点について次のようにはっきりと教えられている。罪の告白は、それが公のものであっても、個人的なものであっても、真心からのものであって、十分に言い表わされなければならない。罪人に無理にしていませるものではない。また、告白は軽率に不注意になされてはならない。ほんとうに、罪がどんなにいまわしいものであるかを認めていない人にしいるものでもない。心の奥底からわき出てきた告白は、限りないあわれみを持ちたまう神へ通じる。詩人ダビデは、「主は心の碎けた者に近く、たましいの悔いにくずおれた者を救われる」(詩篇 34:18) と言っている。

真の告白はつねに、はっきり自分の犯した罪そのものを言い表わすのである。神にだけ告白すべきものもあるだろう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないものもあるだろう。あるいは公のものであれば、公に告白しなければならないこともあるだろう。いずれにせよ、告白はすべてはっきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばならない。(キリストへの道 46～48)

神のみ言葉には、悔い改めとけんそんの実例があげられているが、そこには罪の言いわけをしたり、自己を正しいとするようなことの少しもない、真心からの告白の精神が見られる。パウロは、自分を弁護することなく、自分の罪をその恐ろしいままに描き、罪をいくらかでも軽くしようなどとは考えなかった。……

真に悔い改め、けんそんになった心は神の愛のいくぶんかを悟り、カルバリーの十字架の犠牲を心から感謝してやまない。そして子供がやさしい父親に告白するように、ほんとうに悔い改めた者は神の前に自分の罪をみなもちきたるのである。(キリストへの道 51、52)

何という友!

「世には友らしい見せかけの友がある、しかし兄弟よりもたのもしい友もある。」
(箴言 18:24)

〔イエス〕はわれらのとがを負われた。キリストはわれらの肩から荷をとって休ませてくださる。また心労や悲しみの荷も負ってくださる。キリストは、すべての思いわずらいをまかせるように招いておられる。彼はそのみ胸にわたしたちを抱いてくださるのである。

人類の長兄キリストは、永遠のみくらのそばに立って、救い主として彼を見あげるすべての人間をごらんになる。彼は、「罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである」(ヘブル 4:15)。だから、彼は人間の弱さも、わたしたちの要求も、またわたしたちの誘惑の力がどこにあるかも、体験によって知っておられるのである。恐れおののく神の子よ、キリストはあなたを見守っておられる。あなたが誘惑を受けておられるのならば、キリストはあなたを救ってくださる。あなたが弱ければ、強くしてくださる。無知であれば、知識を与えてくださる。傷つけられたならば、彼はいやしてくださる。エホバは「もろもろの星の数を定め」しかも「心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる」(詩篇 147:4、3)。どんな心配ごとや試練があっても、その問題を神の前に打ち明けなさい。あなたの精神は忍耐力をもって強められる。困惑や困難からぬけ出る道が、あなたのために開かれる。自分が弱く、力のないことを知れば知るほど、キリストの力によって、もっと強くなるのである。荷が重ければ重いだけ、荷を負ってくださるお方にこれをまかせて休むことがうれしいのである。

境遇は友と別れさせ、広い海の不安な水がその間に波うつかも知れないが、どんな事情も距離も、わたしたちを救い主から離すことができない。どこにいても、キリストはわたしたちの右に立ち、わたしたちをささえ保ち、擁護し、はげましてくださる。ご自分があがなわれた者に対するキリストの愛は、母が子を愛する愛にもまさって大きい。「彼はわがためにその命を与えたまいしにより、われは彼により頼まん」と言って、その御愛に安んずることはわたしたちの特権である。

人間の愛は変わるかもしれないが、キリストの愛は変わることを知らない。助けを求めてキリストを呼ぶならば、そのみ手はわたしたちを救うために伸ばされる。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 46、47)

1月20日

わたしたちのための模範

「民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。そのみ前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩篇 62:8)

キリストは水から、またヨハネによる水のバプテスマから起き上がったのち、ヨルダンの岸へ上がり、祈りの姿勢でひざまずかれた。ヨハネの目はこの上なく深い関心と驚愕でキリストに固定された。嘆願者としてこのようにひざまずいたお方を見上げたとき、彼の心は感動に揺り動かされた。キリストは両手をあげそのまなざしは天を刺し貫くように思われた。信者の模範として、このお方の罪のない人性は、メシヤとしての公的な働きを開始するに当たって、天の御父からの支えと力を嘆願した。イエスは熱心な祈りでご自分の魂をそそぎだされた。新しく重要な時代がこのお方の前に開かれつつあった。以前の平和な静かな生活はここで終わるのであった。子としてなすべき義務を果たしていた間、このお方は実業と骨折り仕事の生活のなかで幸福であった。このお方は子供時代、青年時代、大人の時代の人々にとって模範であられた。その行動は時間の重要さと厳粛さを感じておられることを示していた。試練、骨折り、闘争、苦しみそして死が行く手にあることをご存知であった。ご自分が負わなければならない責任の重さを感じて、今まさに新しい骨の折れる義務に携わろうとしておられた。人々を神から引き離したその罪深さと心のかたくなさを感じられた。このお方は、ご自分のあわれみの使命を認めて、ご自分が天から彼らにたずさえてこられた救いを受け入れる者がほとんどいないことをご存じであった。

天使たちはキリストがバプテスマで捧げられたような祈りを以前には聞いたことがなかったので、御父から御子へのメッセージを担う者になりたいと心から切望した。ところがそうではなく御父から直接その栄光の光が出る。(預言の霊 2 卷 60、61)

もしあなたが祈る心と声を見いだすなら、〔神〕は必ず聞き、あなたを助けるために腕が差し出される。祈りを聞き、他のすべての頼みが失敗するそのときに神がおられる。このお方はあなたの避けどころ、困った時のまさにそのときの助けであられる。(この日を神と共に 184)

重荷を負う偉大なお方

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(ペテロ第一 5:6、7)

〔一人びとりが〕 それを知っていようといまいと全ての者が疲れ、重荷を負っている。すべての者がキリストだけが取り去ることのできる重荷に圧迫されている。わたしたちが負っている一番重い重荷は、罪の重荷である。もしわたしたちがこの重荷を負うがままに、ほおって置かれるなら、それがわたしたちを押しつぶしてしまう。しかし罪のないお方がわたしたちの代わりになってくださった。「主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた」(イザヤ 53:6)。このお方はわたしたちの罪意識の重荷を負ってくださった。わたしたちの疲れた肩から重い荷を取り去り、休息をお与えになる。主はわたしたちの心配と悲しみという重荷も負ってくださる。このお方はわたしたちの思いわずらいを一切ご自分にゆだねるようにと招いてくださる。なぜなら、わたしたちを懐に抱いて持ち運んでくださるからである。わたしたちが神と顔と顔をあわせて立ち、自分たちが見られているように見、知られているように知るときに初めて、救い主がわたしたちのためにどれほど多くの重荷を負われたか、またこのお方に預けさえすれば、どれほど多くの重荷を喜んで負ってくださったかを知るのである。

わたしたち人類の長兄は永遠のみ座のそばにおられ、救い主としてご自分に顔を向けているすべての魂に目を留めておられる。このお方は経験によって人類の弱さが何であり、わたしたちの必要が何であり、誘惑の力がどこにあるかをご存知である。なぜなら「すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われた」からである(ヘブル 4:15)。「わたしのところに来なさい」というのがこのお方の招きである。あなたは自分が弱く、まったく無力であることを知れば知るほど、このお方にあって強くなる。「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである」(ヘブル 2:17、18)。

人の愛は変わることがあるが、キリストの愛は変わること知らない。わたしたちが助けを求めてこのお方に叫ぶとき、そのみ手はわたしたちを救うために伸ばされる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1902年4月16日)

1月22日

霊的支え

「あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる。主は正しい人の動かされるのを決してゆるされない。」(詩篇 55:22)

キリストが野の花から学べといわれた教訓を忘れているクリスチャンが多い。彼らは、キリストの変わらぬご保護にたよらない。キリストは、人びとが重荷をキリストにゆだねないために、その重荷負うことがおできにならない。世のわずらいというのは、救い主に援助と慰めを求めるようにすべきものであるにもかかわらず、かえって、人びとをキリストから引き離しているのである。(キリストの実物教訓 28)

自分の正体を悟るように導くのは、試練である。自分の本当の品性をかいま見させ、良い特性を養う必要を示すのは、誘惑の時である。神の祝福を信頼するクリスチャンはどこにいても安全である。都会にいても彼は汚されない。会計課にいても彼は厳格な正直の習慣で目立つ。手仕事の店で彼の働きのどの部分も誠実に成し遂げ、神の栄光だけに目を留める。(預言の霊 4 巻 285)

あなたの重荷を他人に負わせることにより自分が息抜きができると考えてはならない。重荷を負ってくださるお方のところへすぐに行き、そのことを申し上げなさい。このお方はあなたの場合の状況に対応することができ、またそうしたいと思っておられることを信じなさい。あなたが悔悟の念を持って十字架の足元に來るとき、十字架につけられ、よみがえられた救い主の功績に信頼するとき、あなたはこのお方を通して力を受ける。あなたの無力な魂をまかせるとき、このお方はあなたに平安、喜び、力、勇気をお与えになる。そのときあなたはキリストがあなたにとってどれほど尊いお方であるかを他の人々に語るができる。「わたしはこのお方を探して、このお方がわたしの魂にとって尊いお方であることを発見しました」ということができる。……

キリストの柔和とへりくだりを学ぶ人々は、またこのお方が愛したように互いに愛することを学ぶ。彼らは他の人々を批判し責めることを拒む境地へ到達する。他のだれも彼らのためにすることのできない働き、すなわちキリストに学ぶという働きが自分に委ねられていることを学ぶ。わたしたちが自分をそのみ手に委ねるとき、このお方はわたしたちの前に可能性と見込みを示し、誤っている人間よりも無限に高いお方に助けを求めて行くようにとお命じになる。(上を仰いで 359)

天使の守り

「主よ、あなたは人と獣とを救われる。神よ、あなたのいつくしみはいかに尊いことでしょう。人の子らはあなたの翼のかげに避け所を得、」（詩篇 36:6、7）

わたしたちの天父はいかに恵み深く優しくご自分の子らを取り扱ってくださっていることか！目には見えない無数の危険から彼らを保護し、サタンの微妙な悪巧みから守っておられる。さもなければ、彼らは滅ぼされてしまう。ご自分の天使を通じてのこのお方の保護する心配りはわたしたちの鈍い目には見えないので、親切で慈愛深いわたしたちの創造主がみ手の働きの内にもっておられる絶え間ない油断のない関心を熟考することも感謝することもしようとしな。そうであるからこのお方が日々わたしたちに与えておられる数多くのあわれみをありがたく思わない。（教会への証 3 卷 373）

サタンは今でも、海と陸の災害によって、できるかぎり多く人の運命を閉じ込めようとしている。このときに神の民の守りは何であろうか。それは天との生けるつながりである。もしわたしたちが有害な疫病から安全であり続けたいなら、目に見える危険、目に見えない危険から保護されたいのなら、神の内に隠れなければならない。イエスと聖天使の保護する心配りを確保しなければならない。この危難の時代に、主はわたしたちがご自分の前にへりくだって歩み、自分の罪を隠そうとする代わりに告白することを望んでおられる。（ビュー・アンド・ハールド 1908 年 11 月 19 日）

このように、どの時代にも、天使たちは、キリストに忠実に従う人たちの近くにいた。勝利したいと望むすべての人に対して、おびただしい悪の同盟軍が勢ぞろいするが、キリストは、目に見えないもの、すなわち神を愛するすべての人を救うためにそのまわりに天の軍勢が陣を張っているのを見せたいとお思いになる。天使たちの守りによって、われわれがどんなに目に見える危険や目に見えない危険から守られたかということは、永遠の光のうちに神の摂理が明らかにされるときまで、決してわからない。その時になってわれわれは、天の全家族が地上の家族に関心をもっていたこと、また神のみ座からの使者たちが、日々われわれの歩みにつきそっていたことを知るのである。（各時代の希望上巻 297）

1月24日

誘惑に抵抗する力

「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(コリント第一 10:13)

誘惑や試練のないことが、クリスチャン品性の発達のためにもっとも望ましいことではない。困難に会うことがほとんどない場合は、靈的怠惰というもっとも大きな危険の中にいることになる。あらゆる恵みに富まれる神は、ご自分の民が負うことのできない誘惑を受けることはなく、その誘惑を逃れる道を備えると約束しておられる。挫折と反対に絶えずさらされると、クリスチャンはますます用心深くなり、力ある助け手であるお方へますます熱心な祈りをするよう導かれる。神の恵みを通して耐えた途方もない試練の数々は、用心、忍耐、不屈の精神を働かせるように要求されるとき、その人にもっと深い経験、もっと大きな靈的力強さを与える。(パウロの生涯からのスケッチ 300)

誘惑に襲われるからといってもっとも弱い者も失望しないようにしよう。かつて生きていた最高の人々はサタンとその代理人に激しく襲われた。わたしたちがその力に屈しないかぎり、誘惑は罪ではない。真理の武具は敵の火のような矢に対する確かな守りであることを証明する。

けれどもクリスチャンは不必要に自分を誘惑の道においてはならない。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1882年2月16日)

誘惑は罪ではないことを覚えていなさい。人がどんなにつらい状況におかれようとも、誘惑に屈服せず高潔さを保ち続けるかぎり、なにもものその魂を本当に弱くすることはできないことを覚えていなさい。あなたがたそれぞれにとって、命にかかわる最大の関心事は、あなた自身の守りのうちにある。あなたの同意がなければだれもあなたの関心事に損害を与えることはできない。あなたがサタンの矢に魂を開かないかぎり、彼の軍勢はだれもあなたを傷つけることはできない。断固として正しいことをするかぎりあなたは決して滅びることはない。あなた自身の中に思いの汚れがなければ、周囲の汚れはだれもあなたを汚し、汚染することはあり得ない。(彼を知るために 248)

安全のために投資する

「主は、信心深い者を試練の中から救い出し」(ペテロ第二 2:9)

イエスは聖で純潔であったが、わたしたちと同じようにあらゆる点において誘惑された。人が耐えるようにと決して要求されることのない強さと力で誘惑された。ご自分の成功した抵抗の中でこのお方は、わたしたちがそのみ足の後に従わなければならない輝かしい模範をわたしたちに残しておられる。もしわたしたちが自己を過信するか独りよがりであるなら、誘惑の力のもとに倒れるがままであろう。しかしイエスを見上げ信頼するなら、わたしたちは戦いの戦場で敵を打ち負かされた力を自分の助けとして呼び求める。そしてこのお方はあらゆる誘惑に逃れの道を作ってください。サタンが洪水のように来るとき、わたしたちは御霊の剣で彼の誘惑に立ち向かわなければならない。そうすればイエスはわたしたちの助け手となり、わたしたちのために彼に向かって旗を掲げてくださる。偽りの父は、燃えるような力をもって神の真理が彼の顔に投げつけられるとき、震えおののく。

サタンは人々を神から引き離そうとあらゆる努力をする。そして宗教生活が仕事上の心配に飲み込まれるとき彼の目的を達する。彼は彼らの思いを仕事に没頭させることができるので、彼らは聖書を読むために、密室の祈りをするために、朝夕犠牲の祭壇で燃えるような賛美と感謝の捧げものをし続ける時間がない。大欺瞞者の策略になんとほとんどの者が気づいていないことであろうか! どれほど多くの者が彼の計略に無知なことであろうか! 兄弟たちが自ら進んで宗教上の集会を休むとき、神を思わず、敬神の念もないとき、神を自分の勧告者また力強いやぐらとして選ばないとき、世俗の思想と邪悪な不信仰が、どれほどすみやかに入り込み、むなしい自信と哲学がへりくだった信頼する信仰とに取って代わることか。ひとびとは自分自身をイエスから引き離すために、しばしば誘惑がまことの羊飼いの声であるかのように大切にされる。……

人生におけるどのような立場を占めようとも、自分の仕事がどのようなものであろうとも、わたしたちは助けの必要を感じるくらい十分謙遜でなければならない。神のみ言葉の教えに絶対的により頼み、万事において神の摂理を認め、わたしたちの魂を祈りの中で注ぎ出すことに忠実でなければならない。(教会への証 5 巻 426、427)

1月26日

永遠の約束

「神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにある。……御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。」(ヨハネ第一 5:11、12)

今わたしたちは永遠のためのたしかな働きをするときである。キリストはわたしたちのために嘆願しておられる。わたしたちは自分自身を自由意志による、受け入れられる供え物として捧げないのだろうか。罪を覆い隠すのであろうか、それともあらゆる必要なときの助けとしてあわれみと恵みを見出すことができるために罪を告白するであろうか。キリストがわたしたちのために嘆願をしておられる間に、わたしたちはあれほどの大きな苦しみと死を神の御子に与える原因となった罪を捨て去り、忌み嫌わないのであろうか。イエスがわたしたちに同情を示しておられる間にわたしたちは自分自身に同情を示さないのであろうか。悔い改めと悔悟の内に自分の魂を注ぎ出し、新しい心の約束を受け入れないのであろうか。「東が西から遠いように、主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる」と神は仰せになる(詩篇 103:12)。

もしあなたが律法をほんのわずかでも犯しているのなら、神に対して罪を犯しているのであり、その怒りのもとにいる。あなたは神のあわれみを得ることができる。もしあなたがそのために嘆願するならそれを得るであろう。このお方のあわれみと同情にすがって、ありのままあなた自身を投げ出しなさい。信仰によって神をつかみなさい。すべての利己心、貪欲を捨て、信仰によってイエスの血であなたの魂を道徳的汚れから清めなさい。岩なるお方の上に落ちて碎ける一人びとりに十分に無償の救いが提供されている。主よ、主よと言っている者は多くいるが、彼らは自分自身の義に信頼している。彼らは日々罪を行っている。彼らは神に名誉を帰さない。行くところどこでも彼らは悪のパン種のようなだからである。

あなたはなぜ罪をやめないのだろうか。神と協力するならあなたは打ち勝つことができる。キリストの約束は確かである。(世界総会冊子 1899年 10月 1日)

キリストを信じる人々は、自分が信じているお方から自分の動機の力と自分の品性の織物を引き出す。(神のむすこ娘たち 299)

カルバリーの人を掲げなさい。このお方の愛を語り、その力を話しなさい。無限の価を払ってあなたのために買い求めた永遠の命という賜物を、あなたがありがたく思っているかどうかを知ろうと、全宇宙が見つめている。(サイン・オブ・ザ・タムズ 1889年 4月 8日)

「信心があつて足る」

「信心があつて足ることを知るのは、大きな利得である。」(テモテ第一 6:6)

強欲に利得を求めることを減らし、自分にかまうのを減らしなさい。私心のない情け深い気高い行為によって、あなたの神に似た男らしさ、あなたの気高い女らしさを取り戻しなさい。あなたの以前の貪欲な精神を心から嫌悪し、魂の真の気高さを再び得なさい。神がわたしに示してくださったことから、あなたが熱心に悔い改めないかぎり、キリストはあなたを口から吐き出される。……

真理を信じ、神の御子の品性と生涯を熟考していると公言するすべての者にわたしは訴える。このお方はわたしたちの模範である。その生涯には私心のない情け深さが目立っていた。人間の悲哀に絶えず同情の念を起し、良い働きをしながら、巡回された。このお方の生涯全体に利己的な行動は一つもなかった。(教会への証1巻 482)

誇りによって、男女は、ある特定の方法で兄弟もしくは姉妹に奉仕をすることは地位を下げることになりがちだとの立場を取るようになる。しかし、いわゆる使用人の立場と言われるところで奉仕をすることは、説教壇から奉仕するのと同じように賞賛に値するものである。家の中でなさなければならぬ義務を果たすことに地位を下げるようなものではなく、はしためや僕にさせるような義務を申し分なく完璧になしえることは、卑しいことではない。物事に対する正しい見解を取らなら、良い僕であることが自己尊重を傷つけるようなことは決してない。

しかしあなたが主のみ働きのどの枝であつても恥じるところのない、快く教えを受け、学ぶ用意ができており、自分の働きに忠実で、力と能力において絶えず向上しつつ錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めなければならぬ。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年5月15日)

家を飾るために、いろいろなものを無理に得ようとして骨折ったりするよりも、神が尊ばれるもの、すなわち柔和でしとやかな精神を大切にしていけたら、そのほうがどれほど良いであろう。単純さ、柔和、そして真の愛情は、どんなに質素な家庭であっても、そこを天国にする。平和と安らぎを失うより、どんな不自由でも喜んで耐えるほうがいいのである。(家庭の教育 136、137)

1月28日

どのような境遇でも

「わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。4:13 わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。」(ピリピ 4:11～13)

あらゆる面で悩まされ、困らされ、迫害を受けたパウロが彼の試練を軽い患難と呼ぶことができるのであれば、今日のクリスチャンはつぶやくほどのことが何かあるであろうか。パウロの多くの患難に比べてわたしたちの試練はどれほど取るに足りないものであろうか！打ち勝つものを待っている永遠の重い栄光に比べると価値はない。試練は品性を完成するために定められた神の職人である。クリスチャンの損失と苦しみがどれほど大きくても、摂理の道が暗く不可解に見えても、すべては自分の益のためにはたらいっていることを知って、彼は主にあつて喜ぶべきである。(レビュー・アンド・ヘルド 1902年5月6日)

あなたの境遇がどうであっても、摂理の道が暗く神秘的であっても、その道が深い水の中を通っていても、試練や死別が幾度も悩まして、「万事は神を愛する者のために善となるよう共に働く」という保証がある(ローマ 8:28)。「わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしにゆだねられているものを、かの日に至るまで守って下さることができる、確信しているからである」(テモテ第二 1:12) (レクテッド・メッセージ 2巻 261)

ささいな義務を行うにあたって忠実でないかぎり、だれも大きく重要な働きに適したものととはならない。成就すべき務めにふさわしい努力とエネルギーを發揮するために品性が形作られ、魂が訓練されるのは、漸進的である。わたしたちが状況に左右される者であればクリスチャン品性を完成するのに必ず失敗する。あなたは状況を支配し、状況があなたを支配するのを許してはならない。あなたはキリストの十字架に力を見出すことができる。あなたは今だんだんと成長し、困難を克服し、習慣の力を打ち破ることができる。あなたは命を与えるイエスの力によって鼓舞(こぶ)される必要がある。(教会への証 3巻 46、47)

試練という賜物

「このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。」(コリント第二 4:17)

ポートランドに滞在中……わたしを一生虚弱にした事故に出会ったこれらの場所、そして自分の幼年時代に関連した特別に関心のある場所を、わたしは訪問した。しばらくの間負うのが非常につらく困難に思えたこの不幸は、姿を変えた祝福であることが分かった。地上の喜びを妨げた残酷な一撃はわたしの目を天へ向ける手段であった。イエスの内に慰めを求めるとわたしを導いた、幼年時代を暗くした悲しみがなかったなら、わたしはこのお方を決して知ることはできなかったはずである。

鳥かごが明るいところがあると、小鳥は主人が教えたいと思う歌を決して歌うことはないということを読んだことがある。小鳥は歌を聞き、その断片を学びさえするが、別々の完全なメロディをさえずることは決してできない。しかし主人が鳥かごを覆い、暗くすると、小鳥は歌うべきその一つの歌を聴く。その歌を学び、完全なメロディを発するまで、その歌を歌おうと何度も何度も試みる。それから鳥かごの覆いを取ると、小鳥は明るい中でその後ずっとその歌を歌うことができる。神はこのようにご自分の被造物を取り扱われる。このお方にはわたしたちにお教えになりたい歌があり、わたしたちが悲しみの深い影のただ中でそれを学ぶとき、以後たえずそれを歌うことができる。(ビュー・アンド・ハルド 1884年11月25日)

わたしたちは将来自分のすべての試練が自分の救いにどれほど密接にかかわっていたかを、またどのようにこのしばらくの軽い患難が働いて、「永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させる」ようになったかを知る(コリント第二 4:17)。(彼を掲げよ 250)

試練は……わたしたちが神の子である証拠である。パウロは大きな患難を通ったが、天におられる御父が死んでおられるかのように望みを失うことはなかった。彼は苦難の中で喜んでいたが、それはキリストの苦しみにあずかることによってこのお方のかたちに変えられることを望んでいたからである。この信仰の英雄に彼自身のことを語らせなさい。「わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじ」る(コリント第二 12:10)。(ビュー・アンド・ハルド 1884年5月20日)

1月30日

確かな勝利

「感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」(コリント第一 15:57、58)

悪い習慣に……打ち勝つために、あなたは祈り、目を覚ましていなければならない。あなたには働く時間がほとんどないのであるから、熱心かつ徹底的でなければならない。自分の力で十分であると感じてはならない。力ある征服者の御名のうちのみあなたは勝利を得ることができる。他の人々との会話の中で神の厳格な裁きと処罰を長々と語る代わりに、このお方のあわれみと慈しみそして愛を語りなさい。そのみ約束に堅くすがりつきなさい。あなた自身の力では何もできないが、イエスの力強さにあってあなたはすべてのことをすることができる。あなたがキリストの内にありキリストがあなたの内におられるなら、あなたは変えられ、再び新しくされ、聖化される。「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 15:7)。キリストがあなたの内におられること、つまりあなたの心が砕かれ、従うものとなり、へりくだっていることを確かめなさい。神は砕けた悔いた者だけをお受け入れになる。天国は生涯続く辛抱強い努力をする価値がある。しかり、すべてに価する価値がある。(教会への証 4 巻 259)

一人の罪人が悔い改めて神のもとへ帰った知らせに天の宮廷の中で喜びがあることさえわたしたちが見ることができ、天使の立琴をかなでる調べと共に賛美の歌が御座のまえに上るのを聞くことができるなら、わたしたちが行うようにと神が残しておられる働きに、わたしたちがこれほどまでに気乗りがしなく無関心ではないであろうに。(ビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 7 月 18 日)

わたしたちは神から力を得て勝利につぐ勝利をするのであろうか、それとも自分の力で試してついには打ち負かされて退却し、むなしい努力によって尽きてしまうのであろうか。自己が神に屈服するとき勝利は確実である。……

そしてわたしたちが祝福を得るとき、それを利己的に死蔵しないようにしよう。自分の得ている力を苦闘している同胞のだれかを助けるために用いよう。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1903 年 5 月 20 日)

他の人々に仕える機会

「わたしはまた主の言われる声を聞いた、『わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか』。その時わたしは言った、『ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください』。(イザヤ 6:8)

この時代のための真理を提示するのにわたしたちが必要としているのはもっと力ある者、もっとタラントのある者、もっと学識のある者ではなく、神と神が使わされたイエス・キリストの知識を持っている者である。個人的な敬虔さがどの働き人にも資格を与える。聖霊が彼を所有しており、彼の日々の思考、すべての活動がキリストの方針にそってなされるので、この時代のための真理が力となるからである。彼には内住しているキリストがおられる。最もへりくだってキリストにながっている者は力があり、その働きは持続する。(家庭伝道 1897年 11月 1日)

多くの者が神に対する説明の責任に気づいていない。彼らは主のものであるタラントを扱っている。彼らは、正しい方面で用いるなら、自分をキリストと天使らとの共労者とする精神力を持っている。多くの者が、彼らの努力を通して救われ、彼らの喜びの冠の星として輝くのである。しかし彼らはこれらすべてのことに無関心である。サタンはこの世の魅力によって彼らを鎖につなぎ、その道徳力を麻痺させようと努力し、残念ながら首尾よく成功している。

キリストがそのために死なれた尊い魂に比較して家屋や土地はどれほどの価値があるであろうか。親愛なる兄弟姉妹方、これらの魂はあなたがたの尽力によって栄光の王国にあなたがたと共に救われることができる。しかしあなたがたは地上の宝をわずかといえどもそこへ持っていくことはできない。あなたがたが得ることのできるものを得なさい。そしてあなたが働かせることのできるあらゆる能力を用いてそれを保ちなさい。それでも命令は主から出るのであり、どのような技術も消すことのできない火はあなたの生涯をかけた蓄財を数時間で破壊することができる。それらをくすぶっている廃墟の塊にすることができる。あなたがたは地上に宝を積み上げるために自分のタラントとエネルギーをすべて注ぐことができる。しかしあなたがたの人生が閉じるとき、あるいはイエスがみ姿を現わすとき、それらは何の役に立つであろうか。(レビュー・アンド・ヘルド 1885年 6月 23日)

2月1日

快く従う者への賜物

「わたしたちの先祖の神は……イエスをよみがえらせ、そして……わたしたちはこれらの事の証人である。神がご自身に従う者に賜った聖霊もまた、その証人である」(使徒行伝 5:30、32)

あなたには生ける神のみ言葉がある。そして、求めさえすれば、そのみ言葉を信じて従う者にとって力として下さる聖霊の賜物を得ることができるのである。(教会への証 6 巻 163)

イエスのうちに、安逸を愛し、何もしない者にとっては、いまわしい真理がある。イエスのうちに、従順な者にとっては心地よい喜びに満ちた真理がある。それは聖霊の喜びである。(レビュー・アンド・ヘルド 1890 年 6 月 17 日)

天の三位であられる生きたお三方がおられる。この大権者なるお三方、すなわち御父、御子、聖霊のみ名のうちに、生きた信仰によってキリストを受け入れる人々はバプテスマを受ける。そして、これらの大権者たちは、天の従順な臣民がキリストにある新しい命を生きるために努力するとき、彼らに協力してくださる。(パイプ・トレーニング・スクール 1906 年 3 月 1 日)

神の戒めを守ることにおいてキリストの模範に従っていないにもかかわらず、自分が聖なる者であると主張する部類の人々がいる。彼らは神のみ約束が与えられる条件を満たさずに、すぐにそれらを自分たちにあてはめる。しかし彼らの信仰には基礎がない。それは、すべる砂のようなものである。またそれとは別に、神の律法の要求を知り、そこに十字架が含まれていても、従順の道を選び、世から出てきて分離することを選ぶ人々がいる。彼らは都合を考慮せず、非難を恐れて真理を受け入れることにしり込みするようなことをしない。不法の道から離れ、神の戒めの道に足を置く。服従という条件に基づいて与えられる神の約束は、その聖なるみ言葉の光の中を歩む人々のためである。神のみ旨を行う人々は主が約束された益をすべて主張することができる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1890 年 3 月 31 日)

われわれは、よろこんでおのれをむなしくするときのみ天の光を受けることができる。われわれは、すべての思いをとりこにしてキリストに従わせることに同意しないかぎり、神のご品性を認識することも、信仰によってキリストを受け入れることもできない。これをなす者にはすべて、聖霊が無制限に与えられる。(各時代の希望上巻 214)

信賴することによって得る力

「律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。」(ローマ8:3、4)

「古い契約」の条件は、従って生きよということであった。「人がこれを行うことによって生きるものである」しかし、「この律法の言葉を守り行わない者はのろわれる」(エゼキエル書20:11、レビ記18:5 参照、申命記27:26)。「新しい契約」は、「さらにまさった約束」によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにす神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。……わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない」(エレミヤ書31:33、34)。

石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、「御霊の実」を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。(人類のあけぼの上巻442、443)

救い主は、人間がどうして勝利を得るかを示すために勝利された。キリストは、サタンのすべての誘惑に対して神のみ言葉をもって応じられた。神の約束に信賴なさって、神の律法に服従する力をお受けになったため誘惑者は勝つことができなかった。(ミストリー・オブ・ヒーリング 156)

キリストはその人性によって人類に触れ、その神性によって神の御座をつかんでおられる。このお方は人の子として服従の模範を与え、神の御子としてわたしたちに従う力をお与えになる。(キリストを映して45)

2月3日

聖霊は何をなさるか

「〔慰め主〕がきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。」
(ヨハネ 16 : 8)

サタンの統治が抑制され服従させられるのは聖霊という力強い代理者によってである。罪を納得させ、人間という代理者の同意によってそれを魂から追い出すのは聖霊である。そのとき思いは新しい律法のもとに連れてこられるが、その律法は自由の王家の律法である。イエスは魂から罪の奴隷の足かせを砕くために来られた。なぜなら罪は魂の自由が失われるときにのみ勝利することができるからである。イエスは人間の悲哀と苦悩の深みにまで到達された。そしてその愛は人をご自身へと引き寄せる。聖霊という代理者を通してこのお方は思いをその墮落から引き上げ、永遠の現実に固定される。キリストの功績によって人は自分の存在の最も気高い力を実践し、自分の魂から罪を追い出すことができる。(ビュー・アット・ハールド 1893 年 4 月 25 日)

聖霊はだれかにへつらうこともなければ、だれかの発案によって働かれることもない。有限で罪深い人間が聖霊を働かせるのではない。神がお選びになる人間を通して〔このお方〕が譴責者としてこられるとき〔このお方の〕声に聞き従うのは人の分である。(牧師への証 65)

わたしたちは父祖のいた場所にいるのではない。この終わりの時代にはより前進した光がわたしたちの上に輝いている。父祖が行なったのと同じ奉仕をし、同じ働きをするのでは、神に誉れを帰すことも、このお方に受け入れていただくこともできない。神のみ前に罪のないものとみなされるために、わたしたちは彼らが自分たちの上に輝いた光に従い服従することによって忠実であったように、今の時代にわたしたちの光に従い服従することによって忠実でなければならない。神の教会員の一人びとりに天父は与えられた恵みと光に応じた信仰と実をお求めになる。神はそれ以下のものを受け入れることはおできにならない。(ビュー・アット・ハールド 1893 年 4 月 25 日)

義務の声に聞き従わない男子女子供のための助けはない。義務の声は神の声だからである。(牧師への証 402)

特別な、幸福な生活

「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。」(ガラテヤ 5:24、25)

改心した者は自分の友達がキリストのためにすべてを捨てるようにという切なる願いを絶えず感じる。彼らがそうしないかぎり最終的に永遠の離別があることを知っているからである。真のクリスチャンは不信心な友人といるときに、軽薄や軽率ではいられない。キリストがそのために死なれた魂の価値は非常に大きい。

「自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」と、イエスは仰せになる(ルカ 14:33)。神から愛情をそらせるものは何であつてもあきらめなければならない。富は多くの者にとって偶像である。その金の鎖は彼らをサタンに結びつける。また他の人々は名声と世的な名誉を崇める。また責任から逃れた利己的で安逸な生涯を偶像とする人々もいる。これらはサタンのわなであり、軽率な者の足元に置かれている。しかし、これらの奴隷のくびきは碎かれねばならず、肉は情と欲と共に十字架につけなければならない。わたしたちは半ば主のもの、半ば世のものであることはできない。(教会への証 5 巻 83)

あなたは、自分を神にささげ、全く神のものとなり、神に仕え、神に従い、キリストをあなたの救い主として受け入れたのである。あなたは自分ではおのれの罪をあがなうことも、心を変えることもできなかった。しかし神におのれをささげ、神がこれをすべてキリストのゆえになして下さったと信じたのである。信仰によってキリストのものとなったのであるから、また、信仰によってキリストのうちに成長するのである。これは、こちらからも与え、また、神からも受けることである。自分の心も意志も奉仕もすべてを神にささげ、神のご要求にことごとく従わねばならない。そして、服従する力をうけるには、あらゆる祝福に満ちあふれるキリストを心に宿し、キリストをあなたの力、義、また永遠の助けとしてうけなければならない。(キリストへの道 93)

キリストとつながっている者は、意のままに幸福になれる。救い主が導かれる道に従う。このお方のために情と欲と共に自己を十字架につけているからである。これらの人々はキリストに自分の希望を築いているので、地上の嵐は彼らをかた土台から一掃する力はない。(教会への証 4 巻 655)

2月5日

主のみ言葉を守り、祝福を刈り取れ!

「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。……助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわれる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ 14:23、26)

従順はキリストのみ言葉を行なうことである。神のみ言葉は生ける神との交わりの手段である。み言葉を食する者は良い働きすべてに実り多い者となる。神の共労者は、真理の豊かな鉱脈の発見者となり、彼は隠れた宝を見つけるためにその鉱脈を探らなければならない。誘惑に囲まれたとき、聖霊はまさにその誘惑に対処すべきみ言葉を、最も必要なその瞬間に思い起こさせて下さる。そして彼は従わせる力を持ってそれらを効果的に用いることができる。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1895年9月5日)

キリストはわたしたちがどのように祈るべきか指示しておられる。わたしたちは聖霊の賜物を天父に求め、子供のような単純さで御父のところへ来なければならぬ。イエスは再び「なんでも祈り求めることは、すでにかえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」と仰せになる。あなたは自分の罪を悔い改め告白し、あらゆる罪と汚れに染まった魂を空にして、御父のところへ来るべきである。そして主の約束を証するのはあなたの特権である。あなたは自分の気質にふけり、自分の方法をとりながら、神の子であり続けることはできない。わたしたちは自分の遺伝的傾向と苦闘しなければならないが、それは誘惑に屈せず、挑発のもとで腹を立てないようになることができるためである。わたしは日々、わたしを困らせ、当惑させ、いらいらさせる事柄、すなわち、もしわたしが許すなら、わたしの平安を台無しにするような事柄と闘わなければならない。しかし、わたしは誘惑に屈したりはしない。わたしは永遠の岩なるお方にわたしの魂を固定している。そしてサタンがわたしを困惑と悩みの状態のままにすることができないように、キリストがあらゆる点においてわたしの助けでなければならない。イエスは「わたしの平安をあなたがたに与える」と仰せになった。わたしたちが信仰によってキリストの平安を求めるなら、それを得る。イエスは「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」と仰せになる(ヨハネ 14:27、16:24)。(ビュー・アンド・ワールド 1892年10月11日)

賜物を求めよ、条件に従え

「神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜わった御霊によって知るのである。」(ヨハネ第一3:24)

わたしたちの間の真の信心のリバイバルこそ、わたしたちのあらゆる必要の中でも最も大きくかつ最も急を要する。これを求めることが、わたしたちの第一の働きでなくてはならない。主の祝福を得るために熱心に努力しなければならないが、それは神がご自分の祝福をわたしたちに与えたくないからではなく、それを受ける準備がわたしたちにできていないからである。わたしたちの天父は、地上の両親が自分の子供によく贈り物を与える以上に、ご自分に求める者に聖霊を与えたいと思っておられる。しかし、告白とへりくだり、悔い改めと熱心な祈りによって、神がご自分の祝福をわたしたちに与えると約束なさった条件を満たすのは、わたしたちの働きである。(レクテッド・メッセージ 1巻 121)

イエスは「わたしに従ってきなさい」、「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう」(ヨハネ 8:12) と仰せになる。それを困難な義務だと考えてはならない。神の戒めは、人があらゆる悪から守られるようにと、思慮深い計画の中で愛の心があふれる神のご品性の表れである。その戒めは人に対して気ままな権威を行使するためではなく、主が人に、ご自分の従順な子ら、すなわちご自分の家族の一員として行動してほしいと望まれるからである。従順はキリストおよび御父とひとつであることの当然の結果であり、実である。……

わたしたちが間違いなくイエスのみ声に聞き従うとき、あらゆる不満の思いは抑制され、戒めをお与えになったお方にすべての結果を委ねる。わたしたちがイエスのみ足跡を見るとき、それに踏み従うなら、わたしたちは愛と力を得る。(ザイズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年4月17日)

わたしたちは見張り、祈り、神の愛の内に自分の魂を保つべきである。それは、わたしたちがこのお方に心からの服従をお捧げできるためである。わたしたちは聖書を探ることによって受ける光のあらゆる光線を大切にすべきである。聖霊は、神の祝福を心から熱心に求めている者の心に働きかけ、彼が誘惑に抵抗できるようにして下さる。(ユース・インストラクター 1893年8月17日)

2月7日

品性の真の気質

「聖霊……(は) わたしたちにあかしをして、『わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれである』と、主が言われる。『わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』と言い」(ヘブル 10:15、16)

キリストを信じる真の信仰を働かせる者は品性の聖潔によって、神の律法に服従することによってそれをあらわす。イエスの内にあるその真理は天に達し、永遠を達成することに彼らは気づく。クリスチャンの品性はキリストのご品性をあらわし、恵みと真理に満ちていなければならないことを、彼らは理解する。彼らには恵みの油が与えられ、それは決して消えることのない光を維持するのである。信者の心の中におられる聖霊は、彼をキリストのうちに完全にします。男女が興奮する状況の下にいるとき深い感動を覚えるのでクリスチャンであるというのは、間違えようのない証拠ではない。キリストに似た者はその魂の内に深く、断固とした、辛抱強さがあり、しかも自分自身の弱さを自覚しており、悪魔に欺かれたり誤った方向に導かれたりすることがなく、自分に信頼しない。彼には神のみ言葉の知識があり、自分の手をイエス・キリストのみ手の内に置き、このお方をかたくつかんでいるときのみ安全でいられることを知っている。

品性は危機のときに表れる。「夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と叫ぶ声がした」と熱心な声が宣言したとき、眠っていた乙女がまどろみから覚めたが、だれがその出来事のために準備をしていたかが分かった。どちらのグループも不意を襲われたが、一方は緊急のために用意をしており、他方は用意をしていなかったのが分かった。品性は生活状態に表れ、緊急時に品性の本性が明らかにされる。何か突然の予想もしなかった非常な悲しみ、死別あるいは危機、何か予期しなかった病気や非常な悲しみ、魂を死に直面させる何かは品性の真の本質をあらわにする。それは神のみ言葉の約束を本当に信じているかどうかを明らかにする。(レビュー・アンド・ヘルド 1895年9月17日)

心の奥底から従う

「わたしの声に聞きしたがいなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。わたしがあなたがたに命じるすべての道を歩んで幸を得なさい。」(エレミヤ 7:23)

わたしたちは各々、従って生きることもできるし、もしくは神の律法に違反しその権威を無視して罰を受けることもできる。それではわたしは天からの声、シナイ山で語られた十戒に従うのであろうか、それともその恐るべき律法を踏みじじる大多数の者と一緒に進むのであろうか。神を愛する者にとってその戒めを守ること、その御目に喜ばれることをするのはこの上ない喜びである。しかし生来の心は神の律法を憎み、その聖なるご要求に向かって戦う。人々は聖なる光に対して魂を閉ざし、その光が自分の上に輝くときにそのうちに歩むことを拒む。彼らは利己的な満足、世的な富のために心の純潔、神の好意、天国の希望を犠牲にする。

詩篇記者は「主のおきては完全であつて」と言う(詩篇 19:7)。エホバの律法は、その単純さ、その包括的かつ完全さにおいて、なんと素晴らしいことであろう!それは非常に簡潔なので、すべての教訓をたやすく記憶することができるが、しかも神のみ旨全体を表現するほど遠大であり、外面の行動だけでなく、心の思想、意図、願望、感情まで範疇(はんちゆう)に含む。人間の法律はこれを行うことができず、外に現れた行動に対処できるだけである、ある人が違反者であってもその悪事を人の目から隠すことはできる。彼は犯罪者一泥棒、殺人者あるいは姦淫をする者であるかもしれないが、それが発見されないかぎり法律は彼を罪に定めることはできない。神の律法は、行動として外面に現れなくても、魂全体にわきおこる嫉妬、妬み、憎しみ、激しい悪意、復讐、肉欲、野望に注目する。外面に現れなかったのは、意志ではなく、機会がなかったからである。(セクテッド・メッセージ 1 巻 217)

だれの心の中にも主がはっきりと見られることのない動機はないことをすべての者が覚えていよう。一人びとりの動機はあたかもその人の運命がこの一つの結果に掛かっているかのように注意深く量られている。(ビュー・アンド・ハールド 1906年 3月 8日)

2月9日

静まって細い声に耳を傾けよ

「われわれは良くても悪くても、われわれがあなたをつかわそうとするわれわれの神、主の声に従います。われわれの神、主の声に従うとき、われわれは幸を得るでしょう。」(エレミヤ42:6)

聖霊の声に今日聞き従いなさい。よこしまな者が正されるのに遅すぎないことを神に感謝しなさい。今は恵みの時、救いの日である。(ユース・インストラクター 1893年11月30日)

神の御霊は人間の自由を妨げない。聖霊が助け手として与えられているのは、人間が聖なる知的存在者たちと協力することができるためである。魂を引き寄せるのが聖霊の領分であって、決して服従を強いることはない。キリストは天来の感化をすべて分け与える準備をしておられる。このお方は人におとずれるあらゆる誘惑も一人びとりの能力もご存知である。このお方はその人の力強さを量られる。そして対処しなければならぬ義務をその思いの前に示し、ありふれた地上の事柄にあまり夢中になって、永遠の事柄が計算間違いで失われるのを許さないようにと促される。聖霊は神がお委ねになった能力をキリストの奉仕に持ち込み、人が変えられることを真剣に願うのに比例して神聖な型であられるお方にかたどってその人を形造られる。(同上 1894年7月5日)

だれも神の律法を無関心にまた軽蔑して取り扱いながらキリストの内に宿ることはできない。なぜならこれはキリストをキリストに敵対させることになるからである。真理の御霊によって再生された心の中には神の戒めすべてを愛する愛がある。……わたしたちがイエスのみ言葉を重んじ、それを行なうとき、わたしたちを御父とひとつにする本物の愛をわたしたちが持っていることを証すると、イエスははっきりと仰せになった。わたしたちは嗜好と傾向がひとつである。イエスの御霊は、このお方の愛とこのお方の従順とこのお方の喜びでクリスチャンを満たす。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891年12月28日)

降伏の結果

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。わたしは父にお願ひしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。」(ヨハネ 14:15～17)

キリストは聖霊の賜物をご自分の教会に約束されたが、その約束は、最初の弟子たちと同じようにまたわれわれのものである。しかしほかのすべての約束と同じように、それは条件つきで与えられている。主の約束を信じ、これをわがものと主張する人は多い。彼らはキリストについて語り、聖霊について語るが、何の益も受けない。彼らは天来の力によってみちびかれ、支配してもらうために魂をあけわたそうとしない。われわれが聖霊を用いることはできない。みたまがわれわれを用いてくださるのである。みたまを通して、神は民のうちに働き、「その願いを起させ、かつ実現に至らせ」てくださるのである(ピリピ二ノ一三)。しかし多くの者はこれに従おうとしない。彼らは自分で自分を支配したいのである。これが、彼らが天の賜物を受けない理由である。みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきと恵みを待ち望む者にだけ与えられる。神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めるときに、ほかのすべての祝福は次々と与えられる。それはキリストの恵みの富にしたがって与えられるのであって、主はどの魂にもその受け入れる能力にしたがっていつでも与えてくださる。(各時代の希望下巻 158)

神はだれも間違ひが必要がないようにわたしたちに明確な指示を与えておられる。「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」とこのお方は仰せになる(マタイ4:4)。靈感によって与えられた真理は「人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である」(テモテ第二3:16)。ひとつの言葉、あるいは多くの言葉によってではなく、神が語られるすべての言葉によって人は生きるのである。たとえあなたには些細なことのように思われたとしても、このお方が与えておられるひとつの言葉、一つの命令でも無視しながら、安全ではいられない。(教会への証5巻434)

聖霊を分け与えることはキリストの命を分け与えることである。神にこのように教えていただく者は聖霊の内なる働きを所有する者だけであり、キリストのようであることが表されるその生涯に、救い主の真の代理者として立つことができる。(キリストを映して 31)

2月11日

霊的勝利のために強くされる

「もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう。」(出エジプト 19:5、6)

神は人があるがままに受け入れ、彼らのご自分に委ねるなら、ご自分の奉仕のために彼らを教育なさる。魂に受け入れられる神の御霊はその能力をすべて活気づける。聖霊の導きのもとに神に無条件に捧げられた思いは調和して発達し、神のご要求を理解して成就するために力づけられる。弱くためらいがちな性格は強く堅固な品性へと変えられていく。継続的な献身はイエスと弟子たちの関係を非常に緊密なものとし、それによってクリスチャンは品性が主人と似たものとなる。彼はより明確な広い見解を持つ。彼の識別力はますます鋭くなり、その判断力はより均整の取れたものとなる。彼は命を与える義の太陽の力によって活気づけられるので、神の栄光のために多くの実を結ぶことができる。

キリストは罪に対して勝利を得ようと格闘する人々と共に聖霊はとどまると約束なさった。それは、人間という代理人に超自然的な力を授け、また無学な者に神の王国の奥義について教えることによって聖なる大能の力を示すためである。神のひとり子のご自分を低くし、悪賢い敵の誘惑に耐えて、義なるかたであるのに、不義なる人々のために死なれたが、もし、聖霊が個々人の事情において絶えず働く再生の代理人として与えられなかったとしたら、世の贖い主によってなされたことは、いったいわたしたちにとって何の益があったであろう。……

今日この御霊は、人々の注意をカルバリーの十字架上でなされた大いなる犠牲に引きつけ、人に対する神の愛を世に表し、罪を自覚した魂に聖書の約束を開いて見せようと、絶えず働いておられる。(福音宣伝者 285、286)

御霊によって歩く

「御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。」(ガラテヤ5:16)

人が自己をまったく空にし、あらゆる偽りの神が魂から追い出されるとき、その空間はキリストの御霊が注ぎ込まれることによって満たされる。そのような人には魂を汚れから清める信仰がある。彼は聖霊に一致し、聖霊のことを思う。自己にまったく信頼せず、キリストがすべてのすべてである。彼は絶えず開かれてある真理を柔和に受け入れ、すべての栄光を主に帰す。そして、次のように言うのである。「それを神は、御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。」ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである」(コリント第一2:10、12)。

啓示なさる御霊は、また義の実を彼のうちにもたらす。キリストは彼の内で「泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがる」(ヨハネ4:14)。彼はまことのぶどうの木の子であり、神の栄光のために豊かな房の実を結ぶ。どのような性質の実を結ぶのであろうか。御霊の実は憎しみではなく「愛」、不満足や眩きではなく「喜び」、いらだち、不安、こしらえた試練ではなく「平和」である。それは「寛容、慈愛、善意、信仰、柔和、自制」である(ガラテヤ5:22、23)。(福音宣伝者287)

義の太陽の輝く光線を暗くなった思いに射し込むのは御霊である。御霊は永遠の真理に対する悟りを目覚めさせ、人々の内で心を燃やし、思いの前に義の大いなる基準を示して罪を確信させ、罪から救うことのできるただ一人のお方を信じる信仰を抱かせ、現世の滅びゆく事柄から人の愛情をそらし、それらを永遠の嗣業に固定させることによって、品性を変える。御霊は人間を再創造し、精錬し、聖化させ、彼らを王家の一員、すなわち天の王なるお方の子にふさわしい者として下さるのである。(同上286、287)

2月13日

徹底的な清め

「このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。箕を手を持ってその場所を完全にお清めになる。」(マタイ3:11、12 欽定訳)

神の審判はすでに嵐、洪水、大嵐、地震、地と海の危難によって地上に広がっている。偉大な「わたしは有る」というお方がご自分の律法を無効にしている人々へ語りかけておられる。神の怒りが地上に降り注ぐとき、だれが立ち得ようか。神の民が原則に忠実であることを示すときは今である。キリストの宗教が最も侮られ、その律法が最も軽蔑されているとき、そのときこそ、わたしたちの熱心さが最も熱烈であり、わたしたちの勇気が最も果敢なときでなければならない。大多数がわたしたちを捨てるときに真理と義を守って立ち、擁護者がほとんどいないときに主の戦いを戦うこと、これがわたしたちのテストとなる。このときわたしたちは他の人々の冷たさから温かさを、彼らの臆病から勇気を、彼らの背信から忠誠を集めなければならない。国家は反逆の大指導者の側にいる。

教会の精練の日々は急がれており、神は純潔で真実な民をお持ちになる。まもなく起こる力強いふるいにおいて、わたしたちはよりよくイスラエルの強さを測ることができる。主が箕を手を持ち、まもなくご自分の場所を完全にお清めになるその時が近いことをしるしが示している。

大きな困惑と混乱のあるその日が速やかに近づいている。天使の衣をまとったサタンができることなら選民をも惑わそうとする。神と称する多くの者、主と称する多くの者がおり、あらゆる教理の風が吹く。……

〔神の〕怒りが審判において表されるとき、身を低く献身してキリストに従う者は、その魂の苦悩によってその他の世の者とは区別される。その苦悩は悲嘆、涙、譴責また警告によって表される。他の者が存在している悪を外套で覆い、いたるところに行き渡っている大きな邪悪を言い逃れようとする一方で、神の名誉のための熱心さと魂への愛を持っている人々は、他人の好意を得るために、黙ったりはしない。(レヴィエ・アソド・ハラド 1887年1月11日)

改革をなす譴責

「わたしの戒めに心をとめよ、見よ、わたしは自分の思いを、あなたがたに告げ、わたしの言葉を、あなたがたに知らせる。」(箴言1:23)

人々の救いを果たすために神はさまざまなものをお用いになる。み言葉によって牧師によって彼らに語り、聖霊によって警告、譴責、教えのメッセージをお送りになる。これらの手段は、民の理解力を啓発するため、また彼らに自分たちの義務と罪、および彼らが受けることのできる祝福を示すため、さらにキリストの許へ行き、自分が必要とする恵みをこのお方のうちに見出すことができるよう彼らに靈的欠乏を自覚させるためである。しかし多くの者が神の方法の代わりに自分自身の方法に従うことを選ぶ。自己が十字架につけられ信仰によってキリストが心のうちに住んでくださるまでは、彼らは神と和解せず、和解することもできない。(教会への証5巻46)

神のみことばや、神の使命者たちを通して与えられる警告と譴責と懇願の一つ一つは、心の戸をたたく音である。それは中にはいることを求めておられるイエスのみ声である。ノックを無視するたびに、戸を開く気持がうすれる。聖霊の感動は、きょう無視されると、明日はきょうほど強くなる。心はだんだん感じなくなり、人生の短かさについて、また未来の大いなる永遠について、危険な無感覚状態に陥る。さばきの時にわれわれが罪に定められるとすれば、それは、われわれが誤謬の中にいた結果ではなくて、何が真理であるかを学ぶ機会を天から与えられていたにもかかわらず、これを無視した結果である。(各時代の希望中巻291)

人の誤りを正し、改めさせようとする場合、ことばに気をつけなければならない。ことばは命に至る命の香りともなれば、死に至る死の香りともなる。人を譴責したり、勧告したりするときに、傷ついた魂をいやすのにはふさわしくない鋭いきびしいことばを出す人が多い。このような思慮に欠けた発言によって、心を傷つけ、誤った人を反抗的にさせることがよくある。真理の原則をのべ伝えるものは、すべて、天からの愛の油を受ける必要がある。どんな場合であっても、譴責のことばは、愛をもって語らなければならない。そうするならば、わたしたちのことばは、人を怒らせたりしないで、改革をうながすことができる。キリストは、聖霊によってわたしたちに、活力と能力を供給してくださる。これがキリストのお働きなのである。(剣抄の実物教訓312)

2月15日

靈的食物

「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。」(ヨハネ 6:63)

聖霊を受け入れることに関してわたしたちの側で間違いを犯す危険がある。多くの者は感情や気分の高揚が聖霊の臨在の証拠であると思っている。正しい感覚が理解されず、「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ」とのキリストの言葉がその意義を失う危険性がある(マタイ 28:20)。新奇な考案や迷信的な想像が聖書に取って代わる危険性がある。「御言の中に示されていない何かを持ち込もうと切望しないで、キリストに密着していなさい」と民に言いなさい。(セレクトド・メッセージ 2巻 18)

わたしたちが神の御子の肉を食べ、血を飲むのは、キリストのみ言葉を食することによってである。このお方のみ言葉への服従によって、ちょうどわたしたちが自分の食べる食物でできているのと同様に、わたしたちは神性にあずかる者となるのである。神の御子の肉を食べ、血を飲む人々は、靈的命においてキリストと一つになる。だれ一人として、人の食べた食物によって栄養を受けることはできない。人は自分で食べなければならないのである。(家庭伝道 1897年6月1日)

すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生ぜしめる。神のご命令の一つ一つは約束であって、意志がこれに同意し、魂がこれを受け入れるときに、そこには同時に限らない神の生命がもたらされる。それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する。

このようにして与えられた生命は、また同じようにして維持される。人は、「神の口から出る一つ一つの言」によって生きなければならない。

心と魂はかてによって築かれる。どんなかてをとるかを決定するのは、われわれ自身の責任である。われわれの思いを占め、品性を形造る話題の選択は、各人の能力の中にある。(教育 135、136)

得られる創造力

「神の霊はわたしを造り、全能者の息はわたしを生かす。」(ヨブ 33:4)

男女がまず最初に始めるべきことは、真のクリスチャン経験のために神をこの上なく熱心に求めることである。彼らは聖霊の創造力を感じなくてはならない。彼らは天の恵みによって穏やかでまた思いやり深くあるために新しい心を受けなくてはならない。利己的な精神は魂から清められねばならない。一人びとりが導きと励ましを求めてイエスを見つめつつ、心をへりくだらせて熱心に取り組むべきである。そのとき適切に組み合わせられた建物は主にあつて聖なる宮へと成長する。(高い召し 159)

人が真理によって改心するとき、品性を変える働きが進む。彼は神に従順な者になるにつれて理解度が増し加わる。神の思いと意志が彼の意志となり、勧告を求めて神を絶えず見つめることにより彼は理解度が増し加わった人になる。全面的に神の御霊の導きの下に置かれる思いは全体的に発達する。これはかたよった品性を発達させるかたよった教育ではなく、調和の取れた品性を発達させる。無力な揺れ動く品性に見られた弱々しさは克服され、継続的な献身と敬神によって彼はイエス・キリストとの非常に緊密な関係に入り、キリストの思いを持つようになる。彼はキリストと一つであり、原則の健全さと強さ、また知覚力の明晰さを持つ。それはあらゆる光と悟りの源であられる神から来る知恵である。神の恵みは謙遜で、従順で、良心的な魂の上に、義の太陽のように降り注ぎ、思いの機能を強め、たとえ小さくても自分たちの能力を主人の奉仕に用いたいと切望する人々を、最も驚くような方法で、服従と実践によって絶えず強め、イエス・キリストの恵みと知識に成長させ、良いわざによって神の栄光のために多くの実を結ぶ者とならせるのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1887年7月19日)

2月17日

御霊に従って歩む

「肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。」(ヨハネ 3:6)

神は力をまとしておられる。このお方は不正と罪に死んでいる人々を受け入れ、イエスを死人の中からよみがえらせた御霊の働きによって、人の品性を変え、魂に失われた神のかたちを回復することがおできになる。イエス・キリストを信じる人々は、神の律法に逆らう者からその王国の従順な僕、従順な臣民へと変えられる。彼らは新たに生まれ、再生され、真理によって聖化される。(ユース・インストラクター-1895年2月7日)

神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生れなければならない。みたまは心をきよめ、思いを新たにし、神を知り愛する新しい能力をわれわれに与える。それは神のすべてのご要求によることで従う心をわれわれに与える。これが真の礼拝である。それは聖霊の働きの実である。(各時代の希望上巻 225)

神の御霊に導かれている者はみな、神の子である。枝が生けるぶどうの木とつながっているように、彼らはキリストにつながっている。彼らは肉に従って歩むのではなく、御霊に従って歩み、世におけるキリスト教の生きた模範である。彼らはキリストのようであり、キリストが彼らの内におられるのでクリスチャンと呼ばれる。実際彼らは世の光であり地の塩である。御霊の助けと永遠の命のみ言葉が彼らの知恵であり力である。そして彼らは自発的で従順なのですべての真理に導かれる。(原稿 2巻 125)

聖霊の教えを喜んで受け入れる従順な者は「主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない」と言いつつ主にあつて喜ぶ(詩篇 106:1)。もし神の民が、主がイエス・キリストを通して自分たちに注いでくれた現世と霊的な祝福の真価を正しく認めるなら、絶え間ない賛美が彼らの唇から出るであろうに。わたしたちには、エジプトの奴隷の身分から自由になされたイスラエル人の経験と同じように、霊的な奴隷の身分から解放された経験がある。わたしたちの抑圧の鎖は断ち切れ、不可能という紅海はわたしたちの前で開かれたのではなかったか。(教育における特別な証 79)

伝道の働きのために与えられる御霊

『わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう』。これは、イエスを信じる人々が受けようとしている御霊をさして言われたのである。すなわち、イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊がまだ下っていなかったのである。』（ヨハネ7:38、39）

わたしたちは世の光であるお方を信じるのであろうか。そしてイエスはわたしたちの内、永遠の命にわき出る泉であられるのであろうか。わたしたちがこの時代の緊急時に天来の知恵で対処することができ、世の動きにできる限り逆らうことができるようにと、聖霊を授けられているのであろうか。見張り人にとって今は眠くなったり、シオンの城壁の歩哨であることをやめたりする時間はない。まもなく特別で急速な変化が起こる。そして、もし教会が眠っておらず、キリストに従う者が見張り祈っていれば、敵の動きを理解し正しく識別するための光を持つことができる。今こそ、あなたがたが各々その争闘で果たすべき役割に関して神のみ旨を知るために、熱心に主を求めるときである。そして働く機会を認めるときには、主の指示に従いなさい。キリストはご自分の民に「あなたがたは時のしるしを認めることができるか」と仰せになっている。これらのしるしに注意を払い「見張り人よ、今は夜の何時ですか」と言う教会の叫びに正しい信号を与え、誤った印象を与え、破滅をきたすようなことを示さないのは、見張り人の義務である。預言を勤勉に研究してきた者、今もしている者は「主の道を備え、その道筋をまっすぐに」すべきである。

神は一人びとりにその王国との係わりの中でなすべき働きを与えておられる。キリストのみ名を公言する一人びとりは義の原則に関心をもち、これを守る準備の出来た働き人でなければならない。福音の働きは牧師だけに頼るのではなく、あらゆる魂が神のみ事業を推進するにあたって活動的な役割を果たさなければならない。……クリスチャンはどのような召しを受けようと、世に対してキリストを代表するという主のためになすべき働きがある。わたしたちは職業が何であろうと、キリストへ魂を勝ち取るという最高の目的を持っている伝道者でなければならない。（ビュー・アンド・ハールド 1893年2月21日）

2月19日

偽りからの保護

「敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊は彼に対して旗を掲げる。」(イザヤ 59:19 英文訳)

わたしは、昔のモーセの時代を示された。そして、神がバロの前でモーセに行わせられたしるしと不思議の大部分を、エジプトの魔術師たちがまねるのを見た。そして、神は聖徒たちの最後の救出の直前に、神の民のために力強く働かれる。そして、これらの現代の魔術師たちは、神の働きをまねることが許される。

その時が、間もなくやってくる。そして、われわれは、主の強い腕をしっかり握っていなければならない。なぜならば、悪魔のこうした大きなしるしは、みな、神の民をあざむいて、打ち負かすためだからである。われわれは神に頼り、悪人たちが恐れるものを恐れてはならない。すなわち、彼らの恐れるものを恐れず、彼らが尊ぶものを尊ばず、真理のために大胆で勇敢でなければならない。もしわれわれの目が開かれるならば、われわれのまわりに悪天使が群らがつて、なんとかしてわれわれを苦しめて、滅びに陥れようとして新しい方法を考え出しているのを見ることであろう。また、われわれは、彼らの力からわれわれを保護している神の天使たちをも見ることであろう。神の目は、常に注意深く、イスラエルを幸福に保つために見守っている。そして、彼らが神に信頼するならば、神は、神の民を保護し救われるのである。主はせき止めた川を、そのいぶきで押し流すように、来られるからである。

「あなたは、魔法の力にとりつかれた国にいることを忘れてはならない」と天使が言った。われわれは目を覚まし、神のすべての武具を身につけ、信仰の盾を手に取らなければならない。そうすれば、われわれは敵に立ち向かうことができ、悪しき者の放つ火の矢もわれわれを害することができないことを、わたしは見た。(初代文集 132～134)

神の民はすべての世的なやり方を捨てて、神の戒めを守るべきである。行動の正しい原則を取り入れることによって、これらの原則が天に由来するがゆえに尊重すべきである。神への服従は金や銀よりもあなたにとって価値がある。キリストと共にくびきを負い、キリストの柔和とへりくだりを学ぶことによって、多くの人々の闘争を短縮する。なぜなら、敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊が彼に対して旗を掲げて下さるからである。(教会への証 8 巻 95)

神が命じられるとおりに服従を教える

「わたしは主のみたまによって力に満ち、公義と勇氣とに満たされ、ヤコブにそのとがを示し、イスラエルにその罪を示す。」(ミカ3:8)

わたしの贖い主のみ名と力によってわたしは自分ができることを行なう。わたしは人々が聞こうと聞かないが、あるいは耐えようが耐えまいが、神の御霊が命じられるとおりに、警告し、勧告し、譴責し、励ます。わたしの義務はわたしを喜ばせることではなく、わたしに仕事を与えておられる天父のみ旨を行なうことである。(教会への証 4 巻 232)

人々はキリストのみ言葉を聞くが、そのみ言葉を行う者ではない。信心深い生活の進歩的な特徴は、彼らの安逸を愛する利己的な習慣や欲望にとって快いものではない。彼らは、人の救い主の裂かれた体と流された血にあずかろうとしない。彼らは神の御子のかたちにかたどって真の高潔へと新たにされることができるよう、「自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけ」ようとする(ガラテヤ 5:24)。人々の心を試す神のみ言葉は彼らが足りない事を証明する。彼らは救い主の恵みにあずかっておらず、その救いに入る希望の基礎もない。「神からきた者は神の言葉に聞き従う」と、イエスは仰せになる(ヨハネ 8:47)。律法と証を受け入れ、神の真理に同化する人々は、神性にあずかっており、キリスト・イエスにある男女の満ち満ちたすがたに成長していく。そして、真理の言葉が彼らの聖化をなしつつある。彼らは聖潔を誇って公言することなく、キリストのみ働きをなしつつ柔和でしとやかな霊を表し、しみもしわもその類のものもなく、神のみ座の前に立つ。彼らは神の戒めへの服従を通し、神の力によって、神の御子を信じる信仰によって聖化され、栄化される。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888年4月13日)

わたしの命がながらえている間は、人々が聞こうと聞かないが、耐えようが耐えまいが、神の御霊によって印象づけられたとおりに、警告の声を上げることをわたしは止めないと、あなたは確信してもよい。わたし自身には特別な知恵はない。わたしはただ主がわたしにお定めになったなすべき働きをするための主のみ手にある道具にすぎない。(教会への証 5 巻 691)

2月21日

真の繁栄の秘訣

「万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。」(ゼカリヤ4:6)

聖霊という大きな無限のたまものの中には、天のすべての資源が含まれている。神の恵みの富が、地上の人びとに流れないのは、神の側に何か制限があるためではない。喜んで受けさえるならば、だれでも聖霊に満たされるのである。(キリストの実物教訓 394、395)

わたしたちは神に選ばれた民として世の習慣、目的、ならわし、流行を真似ることはできない。わたしたちは世の手本を模倣して、成功のために外面的な現われに頼るがままに闇に取り残されてはいない。主はわたしたちの力がどこから来るのか仰せになっている〔ゼカリヤ4:6参照〕。主がふさわしいと思われるとき、ご自分の方法を守る者に、彼らが善のための力強い感化を働かせることのできる力を与えられる。彼らは神に依存しているものであり、このお方に対して自分に委ねて下さったタラントの用い方の申し開きをしなければならないのである。彼らは自分が神の管理人であり、そのみ名を大いなるものにしようと努めるべきであることに気づかなければならない。

愛情を神に注いでいる者は成功する。彼らはキリストのうちに自己を見失うので、世的な魅力は忠誠から彼らを引き離す力はない。彼らは外観の見せびらかしは力を与えるものではないことに気づく。神の選ばれた民としてわたしたちがなすべき働きを正しく表すのは、誇示や外面的な見せかけではない。……

この時代の真理を信じていると主張する者が主の道に歩み、正義と公道を行なうかぎり、主が自分に繁栄をお与えになることを期待することができる。しかし彼らが狭い道からさまよい出るのを選ぶとき、彼らは自分自身と導きを求めて自分に期待する人々の上に破滅をもたらす。(教会への証 7巻 90、91)

神がお選びになるのは、神に完全で徹底的な服従をお捧げする者だけである。主に従う者はこのお方の指示に従うにあたって、堅固でまたまっすぐでなければならない。人間の考案や計画に従うために少しでも道を外れるとき、彼らは信頼に値しない者となる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 2巻 1037)

精神のおよび道徳的活力

「心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。従順な子供として、」（ペテロ第一 1: 13、14）

よしまな者は絶えず神を誤り伝え、許されていないことに思いを引きつける機会をうかがっている。できることなら、思いを世の事柄にしっかり固定させようとする。感情を興奮させ、情欲を起し、あなたの益にならないことに愛情を固定させようとする。しかし、あらゆる感情、情欲を抑制し、理性と良心に静かに従わせるのは、あなたのなすべきことである。そのときサタンは思いを支配する力を失う。キリストがわたしたちに命じておられる働きは、わたしたちの品性の中にある霊的な悪に対して勝利を進行させていく働きである。生来の傾向が克服され、生来の気質がキリストの恵みによって変えられねばならない。食欲と情欲を克服し、意志をキリストの側にまったく置かなければならない。もし心が神の御霊の感化を受け入れるために開かれているなら、これは痛みを伴う工程ではない。（ビュー・アソド・ヘルド 1892年6月14日）

人々は違反によって墮落したけれども、キリストから道徳力を受けて忠誠に立ち返ることができる。彼らは主の代理者として聖霊を受けることができる。もし彼らが御霊の証を信じ、純潔と聖潔の道に従いつつ福音の要求に服従するなら、「主はあしたの光のように必ず現れいで」ることを知る（ホセヤ 6:3）。（サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1895年10月3日）

わたしの罪が刺し通したお方を見上げるとき、上からの靈感がわたしの上に来る。そしてこの靈感は聖霊を通してあなたがた一人ひとりにも下るのである。聖霊を受け入れないかぎり、あなたは魂の内に神の愛を持つことはできない。しかし、キリストとの生きたつながりを通して、わたしたちは愛と熱意と熱心さを吹き込まれる。わたしたちは太陽の光を反射することはできても、命を吹き込んでもらうことはできない大理石の塊のようなものではない。わたしたちは義の太陽の輝く光線に反応することができる。なぜなら、キリストがわたしたちの魂を照らすとき、このお方が光と命をお与えになるからである。（ビュー・アソド・ヘルド 1892年9月27日）

2月23日

御霊は降伏を要求する

「神がわたしたちを召されたのは、汚れたことをするためではなく、清くなるためである。こういうわけであるから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、聖霊をあなたがたの心に賜わる神を拒むのである。」(テサロニケ第一 4:7, 8)

パウロの聖化は自己との絶え間ない戦いであった。「わたしは日々死んでいるのである」と彼は言った(コリント第一 15:31)。彼の意志と望みは日々義務と神の御旨に衝突した。しかし自分の傾向に従う代わりに、彼は自分の性質にとって不愉快であり十字架につけられるようなものであっても神の御旨を行った。もしわたしたちがキリスト・イエスにあるわたしたちの高い召しの目標に押し進みたいのであれば、わたしたちは自己がまったく空になり、恵みの黄金の油に満たされていることを示さなければならない。神はみ摂理を通してわたしたちを取り扱っておられる。永遠の昔からこのお方はわたしたちをご自分の忠実な子として選んでおられる。このお方はわたしたちのために御子を死に渡されたが、それはわたしたちが真理への服従を通して聖化されるためであり、自己はことごとくどんなに小さなものも清められるためであった。今このお方はわたしたちに個人的な働き、個人的な自己降伏をお命じになる。わたしたちは聖霊に支配されるべきである。神を信じると公言するわたしたちが、そのみかたちに一致するときのみこのお方は名誉を受けることがおできになる。わたしたちは世に聖潔のうるわしさを示すべきであり、キリストのような品性を完成させないかぎり、わたしたちが神の都の門をくぐることは決してない。もしわたしたちが神を信頼して聖化のために努力するなら、それを受ける。そのとき、わたしたちはキリストのための証人として、神の恵みがわたしたちの内に働いてきたことを知らせることができる。(ユース・インストラクター 1899年8月24日)

キリストの宗教を持つということは、あなたが無条件に自分のすべてを神に捧げ、聖霊の導きに同意してきたことを意味する。聖霊という賜物を通して道徳力があなたに与えられる。そして神の奉仕のために過去に委ねられたタラントがあなたにあるだけでなく、その能力が著しく増し加えられる。わたしたちの力をすべて神に捧げると、人生の問題は大いに単純になる。それは数知れぬ生来の心の感情との葛藤を弱め、短くする。宗教は老若の魂をキリストに結びつける黄金の紐である。宗教を通して、喜んで服従する者は暗く入り組んだ道のりを神の都まで安全に導かれるのである。(同上 1893年2月2日)

改心の証拠

「神が御霊をわたしたちに賜わったことによって、わたしたちが神におり、神がわたしたちにいますことを知る。」(ヨハネ第一 4:13)

キリストを信じる真の信仰を働かせる者は、品性の高潔さと神の律法への服従によってそれを明らかにする。彼らはイエスの内にあるがままの真理は天に達し、永遠にまで及ぶことを悟る。クリスチャンの品性はキリストの品性を表し、恵みと真理に満ちていなければならないことを理解する。彼らには決して消えることのない光を支える恵みの油が与えられている。信者の心に宿る聖霊は彼をキリストにあつて完全にする。男女が興奮するような状況の下で深い感動を表すからといって、彼らがクリスチャンであるという間違えようのない証拠ではない。キリストのような者は魂の内に深く確固とした根気強い要素を持ちながら、しかも自分自身の弱さを自覚しているので、悪魔に欺かれたり、誤った方向に導かれたりすることがなく、自分を信頼しない。彼には神のみ言葉の知識があり、イエス・キリストのみ手に自分の手を置きこのお方をしっかりとつかむ時だけ安全であることを知っている。(ユース・インストラクター 1895年9月17日)

神の聖なる教訓を守るところはどこであっても、神のみ言葉と聖霊が人の心に浸透し、生来の品性を変えた証拠である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1896年4月2日)

愛によって働き魂を清める信仰が経験の中になければならない。キリストの愛は肉の傾向を征服する。真理はそれ自体の中に天に起源がある証拠を担っているばかりでなく、神の御霊の恵みによって魂を純潔にする力があることを証明する。主は、わたしたちが自分の困難と罪の告白をすべて携えて日々ご自分のところへ来ることを望んでおられる。そうすればご自分のくびきを負い、ご自分の重荷を担うことにある休息をわたしたちに与えることがおできになるからである。恵み深い感化力を伴った主の聖霊が魂を満たし、あらゆる思想がキリストに従うよう導かれる。(教会への証 5巻 648)

イエスの御霊はその愛、その服従、その喜びでクリスチャンを満たす。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891年12月28日)

2月25日

御霊は何を表すか

「ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。」(コリント第一 2:12)

人が自己をまったく空にし、あらゆる偽りの神が魂から追い出されるとき、その空間はキリストの御霊が注ぎ込まれることによって満たされる。そのような人には魂を汚れから清める信仰がある。彼は聖霊に一致し、聖霊のことを思う。自己にまったく信頼せず、キリストがすべてのすべてである。彼は絶えず開かれてある真理を柔和に受け入れ、すべての栄光を主に帰す。(福音宣伝者 287)

神の律法の変わらない主張を理解するすべての者は御言の中に与えられているあらゆる要求に絶対的な服従をしよう。聖霊による罪の自覚は警告であり、無視することは危険である。(ザン・ビュー 1899年12月5日)

神の御霊があなたに真理を確信させている間に、難癖をつけるために立ち止まらないで、信じなさい。あら捜しをしないで、証拠に聞き従いなさい。あなたの自尊心をへりくだりに譲り、あなたの偏見を公平と取り替えなさい。血肉に相談しないで、神にすべてを明け渡しなさい。聖書をあなたの導き手とし、「主よ、あなたはわたしに何をおさせになりたいのですか」と熱心に問いなさい(使徒行伝 9:6 英文訳)。あなたがひとたび生来の独立心と自分の意志を明け渡し、子供のように従順な服従と取り替え、喜んで教えを受けるなら、まことの羊飼いが「これは道だ、これに歩め」と仰せになる声をあなたは聞くようになる(イザヤ 30:21)。キリストはうめぼれている者、頑固なものを教えるおつもりはない。このお方が公義に導き、ご自分の道を教えると誓っておられるのは、柔和な者だけである。もしあなたが真理を調べているなら、服従は難しくない。もし主人であるお方のみ旨を本当に知りたいなら、あなたはそれを感謝して受ける。わたしたちはキリストの学校の生徒である。イエスへの本物の愛は必然的に真理への愛を造り出す。あなたの心に真理を蓄え、知識を求めなさい。「わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。わたしをあなたの戒めから迷い出させないでください。」「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」これをあなたの日々の祈りにしなさい(詩篇 119:10、18)。(ビュー・アンド・ハラルド 1875年12月2日)

任務と慰め主

「人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。」(マルコ 13:11)

わたしたちはまだまだしきりに自分の嘆願をもってせがみ、聖霊の賜物をこのお方に求めようとしていない。主はこのことでわたしたちがご自分を煩わせることを望んでおられる。わたしたちが御座に来てしきりに嘆願することを望んでおられる。神の改心させる力がわたしたちの教会全体に感じられる必要がある。得ることのできる最も価値のある教育は、今は暗闇である場所へ真理のメッセージを携えて出て行くことの中に見出される。ちょうど最初の弟子たちがキリストの任務に従って出て行ったのと同じように、わたしたちも出て行かなければならない。……「わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ」と、このお方は仰せになった。……

主はわたしたちがご自分と調和することを望んでおられる。もしわたしたちがこれをするなら、その御霊がわたしたちを支配する。(クリスチャン教育の基礎 537、538)

神のみ言葉の光の中での綿密な自己吟味が必要であるが、それはわたしたちが果たすべききわめて重要な働きをすることができるためである。(サザン・レビュー 1899年12月5日)

人の罪のために死んでいかれる十字架上の神の御子の啓示は、無限の愛の力によって人々の心を引き寄せ、罪人に罪を確信させる。キリストは律法が犯されたので死なれたが、それは罪を犯した者がその極悪の罪の罰から救われることができるためであった。しかし歴史は、世界を回復するよりは滅ぼすほうがたやすいことを証明している。なぜなら、地を天と結びつけ、人を神と結びつけるために来られた栄光の主を、人々が十字架につけたからである。(同上 1890年8月26日)

〔キリスト〕は、ご自分に従う者が議会や裁判官の前に立たなければならないとき、何を語るべきかを考える必要はないと約束なさった。わたしがあなたを教えるであろうと、このお方は仰せになった。わたしがあなたを導く。神が教えられるということがどういうことであるかを知って、わたしたちは天来の知恵の言葉が思い起こされる時、それらを自分自身の思想とは区別するのである。わたしたちはそれらを神のみ言葉と理解し、神のみ言葉の中に知恵と命と力を見る。(クリスチャン教育の基礎 538)

2月27日

聖霊の力のもとで

「主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね」(イザヤ 61:1)

キリストは人々のいるところで彼らに会われた。このお方は最も力のこもったしかも単純な言葉で彼らの思いにはっきりとした真理を示された。このお方を信じる信仰を通して、身分の低い貧しい者や、最も無学な者が、神の最も高められた真理を悟ることができた。だれもその意味に関して学問のある博士に意見を聞く必要はなかった。キリストは、無知な者の知らない神秘的な推論であるいは不慣れた博識な言葉を用いて、彼らを当惑させることはなさらなかった。世がかつて知った最も偉大な教師は、その教えにおいて最も明確で単純で实际的であられた。

イエスは絶えず一つの目的のために働かれた。その力はすべて人々の救いのために用いられ、その生涯のあらゆる行為はその目的のためであった。このお方は出かけるとき、ご自分に従う者を教えつつ徒歩で旅行なされた。その衣服はほこりにまみれ旅で汚れており、その外観は人を引きつけるものではなかったが、その聖なる唇から語られる単純で鋭い真理は、たちまち聴衆にその外観を忘れさせ、人物ではなく、この方の教える教理に魅せられるのであった。(福音宣伝者 1892年 393)

世の多くの人々は、それ自体は悪ではない事柄に愛情を注いでいる。しかし、彼らはこれらのことに満足し、キリストが与えたいと思っておられるもっと偉大なもっと気高い良いものを求めない。わたしたちは今彼らが大事にしているものを彼らから荒々しく奪ってはならない。真理の美しさと尊さを彼らに示しなさい。キリストをその麗しきの内に見つめるようにと彼らを導きなさい。そうすればこのお方から彼らの愛情を引き離すあらゆるものから彼らは離れるであろう。これが救い主の人々を扱う原則であり、教会に持ち込まなければならない原則である。……

世は悲しみと苦しみと罪の重荷を抱えている男女に満ちている。神は、彼らの重荷をとりさり、休息を与えるお方を彼らに示すために、ご自分の子らをお送りになる。助け、祝福し、癒すことがキリストの僕の任務である。(教会への証 6巻 54、55)

必要条件と約束

「もし、あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができる。」(イザヤ1:19)

わたしたちはキリストのそば近くを一瞬一瞬注意深く歩む必要がある。キリストの御霊と恵み、愛によって働き魂を清める信仰が人生において必要である。

わたしたちは、神がご自分の民に指示なさる聖なるご要求をはつきりと理解する必要がある。神のご品性の写しである律法をだれも理解し損なう必要はない。石の板に神の指で書かれたみ言葉は、ご自分の民に関するこのお方の意志を完全に表しているのだから、だれも間違いを犯す必要はない。(レクテッド・メッセージ 1 巻 225)

失われた世界への愛が、日々〔キリストの〕生涯のあらゆる行為に表された。その御霊の息吹を受ける人々はキリストがその内で働かれた人々と同じ方針で働く。……

神の律法への違反のゆえに、魂が神への悔い改めの必要を知り、キリストの功績はこのお方によって神に来るすべての者を最大限度にまで救う効力があることを悟って、信仰によってキリストを見るよう導かれるのはこのお方の恵みによってである。(ユース・インストラクター 1894年8月16日)

すべての者が今仕事に取りかかり、生きた者らしく行動すること、滅びつつある魂の救いのために労することが重要である。もし教会員全員が主の働きのために来るなら、わたしたちがこれまで目撃したことがないような主の働きのリバイバルを目にすることであろう。神はこのことをあなたと教会員一人ひとりに要求なさる。神の召しに従うことがあなたにとって最善であるかどうかを決定するのは、あなたにまかされてはいない。服従が要求されているのである。そして、あなたは従わないかぎり、あなたは中立よりも悪い立場に立っているのである。神の祝福を受けないかぎり、あなたにはこのお方ののろいがある。あなたがたは快く従うようにとこのお方は要求なさり、それはあなたが地の良き物を食べることができるためであると仰せになる。……

あなたには主のぶどう畑における個人的な働きがある。あなたはあまりにもあなた自身のことを考え、思い煩っている。あなたの心をととのえ、それから熱心になりなさい。「主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか」と問いなさい(使徒行伝9:6 英文訳)。(教会への証 2 巻 166)

自分たちの悲しみを忘れる助けとなったにちがいません。そしていつかこの子が立派な青年に、ちょうどこの子の高貴な父親のように成長する日のことを考えると、彼のためになんとすばらしい夢を見たことでしょう。この最初のむすこのために彼らの心には将来のためになんという大きな希望をいただいていたことでしょう！

ああ、そうはならなかったのです！

その代わり、この愛しい愛しい宝もの、彼らの心の喜びは、彼らの最大の悲しみの源となってしまいました。

彼らは自分たちがエデンの園から追放されたとき、罪の代価を支払ったと思いました。まもなく、すぐに、彼らは罪が男の子の命の中で何をすることができるか、男の子の家庭に対して何ができるか、その両親の心に対して何ができるかを見ることになるのでした。

ああ、なんとなんと悲しい物語でしょう！この美しい赤ちゃん、この完全な赤ちゃん、世界の最初の男女に生まれた最初の赤ちゃんが、最初の殺人者になってしまったのです！

ハッシュド長いも

■材料

長芋	450 グラム
昆布顆粒だし	小さじ1
塩	小さじ1
しょうが	大さじ1
片栗粉	半カップ
しょうゆ	大さじ2

■作り方

1. 長芋を1センチ角に切ります。
2. そこにしょう油以外の調味料を入れます。
3. 混ぜ合わせたら、フライパンで色がつくまで焼きます。
4. ひっくり返したら、しょう油をかけて、アルミホイルをのせて、5分ほど蒸し焼きにします。
5. いくつかに切り分けて、盛り付けます。のりで巻いてもよいです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

- 福音の宝
- 聖所真理

お申込先 : sdarm.shomaru@gmail.com



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第13話

最初の赤ちゃん(II)

彼らのすべての子どものうち、わたしたちが名前を知っているのは3人だけです。そしてそれはみな男の子でした。もちろん、彼らの家族には女の子もいたにちがいありません。しかし、彼女たちの名まえは聖書の中に一人も出てきません。

彼らの最初の男の子、つまりこの地上に生まれた最初の子どもの名まえは、カインと言いました。わたしたちがその名前を知っているのはふしぎではありませんね。なぜなら、最初の子どもたちはいつでも、とてもとても大事ですよ？

アダムとエバはどれほどこの小さい男の子を愛したことでしょう！彼らは子どもの手や足の指を数えたり、何度も何度もその目、鼻、口の美しさに驚いたことでしょう。ちょうど、そのときからすべての父親や母親が、自分の最初の子どもを感心してながめてきたように！

わたしは神の御子もまた、エバの腕の中に包まれたこのやわらかく小さな赤ちゃんを何度もやさしくごら



んになったに違いないと思います。なぜなら、このお方はいつかアダムの子らの間に住むために、このようにやって来ることになることをご存知であったからです。

小さなカインは、自分の両親の悲しい心に、どれほどのなぐさめとなったことでしょう！彼を見ること、彼と遊ぶこと、彼を愛することの喜びは、

(65 ページに続く)